

【史料】

## 近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』

末永國紀  
本村希代  
上野山学

近江国蒲生郡日野出身の近江商人矢尾喜兵衛家の創業は、主家矢野新右衛門との共同出資で武蔵国秩父の大宮郷に開店した寛延二年（一七四九）である。店名は桝屋利兵衛。業種は酒造業と万小売業であり、二五〇年を経過して、現在は焼酎・ワインを包含する酒造業と百貨店業に発展している。

これまで近江商人矢尾喜兵衛家についての論考として、「近江商人矢尾喜兵衛家の年中行事と作善 武州秩父店の場合」（同志社大学『経済学論叢』第四七巻第四号）・「商人資本の蓄積過程 近江商人矢尾喜兵衛家の場合」（同志社大学『経済学論叢』第五四巻第四号）という二本を発表し、史料紹介として「近江商人矢尾喜兵衛家『所々風聴来状留』（同志社大学人文科学研究『社会科学』第六九号）を著してきた。ここで紹介しようとするのは、天保二年（一八三一）正月吉日と表記された『覚』である。史料の形式は半横の帳面であり、見開きには、「当店始ヨリ、諸比加恵、第五冊目」とあるので、本来は最低でも五冊はなければならぬが、他の四冊は未発見である。

天保年間は、地方市場の成長と対外関係の緊迫化、それに対応した幕藩による天保改革が行なわれた、近代への始動の時期である。この時期の秩父地方の動向については、詳細には解き明かされていないが、最大の産物であった秩父絹をはじめ日常必需品の調達取引は、周辺農村での定期市から町場の要素をもった大宮郷の定住商人へと商権が移行しつつあった時期であることが指摘さ

れている(『秩父市誌』昭和三七年、三五六頁)。

ここに取り上げる五冊目にあたる『覚』の内容は、天保期を中心とした手控え帳である。その主な項目は左のとおりである。なお、申告書・報告書・嘆願書の仲介宛先のほとんどは創業以来の枅屋の世話役であった割役名主の松本惣左衛門である。また、事柄の記録年には順逆があり、かならずしも暦年のとおりにはなっていないことにも留意しなければならない。

文政一三年

同年に発布された酒造三分の一減石令にともなう酒造高の変更、不要となった酒造道具類の申告

天保二年

三分の一減石による酒仕込みの申告・店内使用の印形類・土蔵建替の申告・奉公人の葬礼・諸納物の立替金借用証

天保四年

飢饉時の作善行為・米廉価販売に対する恩賞・天保五年小川と寄居の穀相場

天保五年

三分の一酒造令と酒造高・盗品質入尋問への応答・大宮郷の農閑商いに対する免札交付と冥加銀の賦課・飯能町大火見舞い・

京染物値段・京都への飛脚賃

天保六年

水油塩問屋の一手販売申請への反対意見の陳述・藤岡京屋飛脚賃・調達金の返還分を献金に差し出す

天保七年

差紙によって江戸へ呼び出され、米安売りに対する褒美金頂戴・幕府による三分の一酒造令発布・捕縛された盗賊の盗品リス  
ト・古酒と古米の所蔵高・凶作に対する白米安売り・秋の諸物価・諸穀高値につき酒造休止・大宮郷の酒造人と酒造高のリス  
ト・四分の一酒造令・関東在々より江戸入津量の規制・貧民救済の為に酒造余剰米の買入れ許可申請・酒過造の嫌疑への弁

明・酒造業者間の元酒の融通許可申請・凶作につき難渋人への米銭の施行

天保八年

米安売り損金店卸控・物価引下げ令にともなう物価引下げの報告・米安売りの報告書・天保五両判金鑄造の布告写・大宮郷の酒造米高御改帳写・酒造高届・天保五両判金と天保一分銀鑄造と両替の布告写

天保九年

吉田絹市一件・奉公人不祥事の報告・奉公人の葬礼・髪結への貸金始末・大家隠居死去時の香典・江戸呉服仲間より江戸呉服持下り直売人の取締り通知・酒造制限令違反者への厳罰と制限令服務の請書提出の触・榭屋の奉公人数・穀屋行司による買入れ俵数の報告・盗品質物一件・関東取締出役より酒造三分の一造についての差紙写・酒造制限令の誓約・榭屋の三分の一酒造の内訳・米買付代金紛失事件

天保十年

穀屋仲間へ免札等の取扱い令達・百姓の武芸稽古の禁止・金相場は一両につき銀六十目以上の金高相場の指示

天保十一年

秩父買次仲間による江戸十組呉服問屋への誓約書・江戸城西丸普請につき御用金

安政二年

十二月十日の秩父大火

右の項目は三種に類別できる。榭屋自身に関すること、大宮郷を中心に秩父地方に関わる事柄、それに幕府法令等の写である。内容から注目すべき点は、酒造減石令の影響に関する事柄と天保飢饉に対する作善行為の実施状況である。矢尾家にとって酒造業は開業以来の家業であり、利益の柱であつただけに減石令は大きな関心事であり、関連記事が多いのは当然である。また、飢饉に際しての貧民への米銭施行や米安売り等の救恤は、遠国渡来の商人であることを自覚して、地元配慮した経営を心掛けた近江商

人としては避けることのできない出費であった。そのほか、秩父買次仲間の江戸十組呉服仲間との関係や天保五年の大宮郷における大小の商人数が三五八人であり、その冥加銀が一貫四五六匁七厘五毛であることも興味深い。榭屋については、酒造米高が元来は三三五石であり、天保九年の店奉公人が二六人、酒造奉公人が八人の計三四人であることも知ることができる。

# 凡例

- ・ 原文に適宜読点を付した。
  - ・ 字体は原則的に常用漢字を用い、異体字・俗字・略字などはそれぞれの正字に改めた。また変体仮名は平仮名に改めた。ただし江・而・与・者・茂・ゝはそのまま残した。
  - ・ 判読不能の文字については、字数が明らかかなものは字数分を「」で示し、字数が不明なものは「」で示した。
  - ・ 欠字・平出は一字あきとした。
  - ・ 誤字・脱字・当て字などは適宜（ ）で傍注した。
  - ・ 意味が通じにくい原文のままとしたときは（ママ）、原文の文字に疑問があるときは（カ）などの注記を施した。
  - ・ 符丁は未解明であるがそのまま記載した。
- （なお、本稿の解説に際しては、同志社大学大学院経済学研究科博士前期課程の奥田以在氏にも参加協力していただいたことを記しておきたい）

(表紙) (虫積)  
「辛」

覚

卯正月吉日

当店始ヨリ

諸比加恵

第五冊目

文政十三寅十二月、相用酒造三ヶ壺減石造被仰付候二付、

酒造道具御調被仰付、則左之通相調差上申候

乍恐以書付奉申上候

酒造株高七十九石壺斗

一 酒造米高三百廿五石

右酒造二是迄相用候諸道具左之通

一 六尺桶 十七本

一 四尺桶 十本

一 三尺桶 十三本

一 壺台桶 十七本

(瓶)  
一 小敷桶 貳本

一 水桶 壹本

一 米漬桶 貳本

一 米出し桶 壹本

一 酒揚桶 貳本

一 大釜大小二て 貳ツ

一 細高桶 五本

一 船 壹艘

一 だき樽 八ツ

一 糺ふた 三百五拾枚

一 焼酎こしき 壹本

一 半切 百十式枚

一 ため 十六

一 酒袋 六百枚

一 さるぼふ 貳ツ

一 吹ぬき 壺ツ

ノ

右之内此度造高三ヶ壺減石被仰付候二付、不用二可仕分左

之通

一 六尺桶 四本

一四尺桶 三本

一三尺桶 三本

一壺台桶 六本

一だき樽 貳ツ

一糶ふた 七十枚

一半切 三十枚

一酒袋 百五十枚

ノ

右者此度御尋二付、書面之通取調候所聊相違無御座候、此

段被仰上ケ可被下候、已上

文政十三年庚虎十二月

秩父御領分大宮郷

酒造人

升屋利兵衛事

治兵衛

松本宗左衛門殿

前書之通吟味仕候処聊相違無御座候、依之奥印仕差上申候、  
已上

与頭 彦助

松本宗左衛門

御代官所

乍恐以書付奉願上候

此度酒造之儀三ヶ壺減石被仰付候二付、是迄造高二相用候諸  
道具取調、右之内何々何程不用二相成候与申儀書付可差上旨  
被仰付候付、別紙之通私酒造道具取調書付差上申候、然ル処  
酒造之儀者先 御領主様御時代々之仕来二て、毎年新酒寒酒  
共酒造相始候節御掛リ山方御役所へ書面を以御届ケ申上候  
儀、当年茂先達而御届書奉差上置候通最早先月中二造高不残  
酒造仕込相仕舞申候処、当月二日右減石御触書、酒造相仕舞  
候跡之儀二付右不用二可仕諸道具分も当時相用罷在候間、何  
卒宜御勘弁被成下置候様奉願上候、尤来年々者右不用道具之  
分急度相除置可申候、此段被仰上ケ御聞濟被成下候ハ、難有  
仕合奉存候、已上

文政十三寅十二月

秩父御領分大宮郷

酒造人

升屋利兵衛事

治兵衛

松本宗左衛門殿

前書之通奉願上候二付、奥印仕差上申候、奉願上候通御聞濟  
被成下候ハ、難有奉存候、以上

与頭 彦助  
松本宗左衛門

御代官所

坂口分

乍恐以書付奉申上候

酒造株高十五石

一酒造米高百石

右酒造道具當時有之候分左之通

一六尺桶 四本

一五尺桶 壹本

一四尺桶 壹本

一三尺桶 三本

一細高桶 壹本

一水桶 壹本

一壺台桶 四本

一米漬桶 貳本 大小二て

一酒揚桶 壹本

一こしき 壹本

一舩 壹艘

一半切 三十枚

一たき樽 三本

一糶ぶた (ト) 百まへ

一酒ため 五十

一さるほふ 貳ツ

一吹ぬき 壹ツ

一酒袋 貳百枚

一焼酎こしき 壹ツ

一釜 貳ツ

ノ

右者此度酒造之儀造高三ヶ壺減石二付、是迄之造高二相用候諸道具取調、右之内何程不用二相成候与申儀委細書付可差上旨被仰付候处、私義者当寅八月より当村重左衛門方より前書酒造株借受酒造仕候得共、諸道具甚不足二付追々仕立罷在候得共未出来揃不申、書面之通当時相用居候得ば、此度三ヶ壺減石仕候而も不足二御座候、尤不足之分八追々仕立相用候様仕度候、此段被仰上ヶ可被下候、以上

文政十三寅十二月

秩父御領分上田野村

百姓十左衛門店

酒造人 喜右衛門

支配人 宗八

名主 龜吉殿

前書之通聊相違無御座候、依之奥印仕差上申候、以上

与頭

又左衛門

名主

龜吉

御代官所

御代官所

松本

候、此段御届ヶ奉申上候

天保二年卯九月

升屋利兵衛事

升屋治兵衛

松本宗左衛門殿

前之通

一天保 年号改元從 御公儀様被仰出文政十三寅十二月十

六日、当郷廿四日御触有之

九月十七日大家様へ差上ル

乍恐以書付奉申上候

一酒造米高三百廿五石

内米百八石三斗三升三合 去虎<sup>(寅)</sup>年三ヶ壺減石被仰付候二

付引

残米貳百十六石六斗六升六合 当卯年酒造高

内米百石 新酒造之分

米百十六石六斗六升六合 寒酒造之分

右之通当卯年私酒造新酒造之分当月十五日<sup>迄</sup>仕込相始申

乍恐以書付奉申上候

一寛政二戌年三月

酒造株讓請申候

大宮郷

酒造人利兵衛事

当時治兵衛

右者酒造株讓請候月<sup>(付)</sup>可書上旨被 仰付候二付相糺、書上候

通聊相違無御座候、以上

天保二卯年九月

秩父御領分大宮郷

割役 松本宗左衛門留守付

組頭 彦助判

御代官所

右者当店印形者不仕、役印斗二御座候



乍恐以書付御届奉申上候

酒造米高三百廿五石之内百八石三斗三升三合、去寅年三ヶ

毫減石被仰付候二付、引残式百十六石六斗六升七合、当卯

年酒造米引百石新酒造り過分引残り

一米百十六石六斗六升七合

右之通当卯年私酒造寒酒仕込当月朔日より相始申候、此段御

届奉申上候、以上

天保二年卯十二月

大宮郷酒造人

升屋利兵衛事

治兵衛

松本宗左衛門殿

右之通御届ヶ奉申上候二付、奥印仕差上申候、以上

松本宗左衛門

山方御役所

天保三辰二月改之

店内にて取扱候仕切印形左之通り

長本分

判

判

判

諸方にて札二相用当時仕切判二用

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』（末永・本村・上野山）

判

判

判

諸方江持出候仕切判  
組札相用ひ

判

ノ

古着方にて取扱分

判

判

見セにて取扱候分

判

判

判

天保七申五月より用之判諸方持行、但し見世方二而遣ひ申候分

ノ

酒蔵にて取扱候判

判

売場にて取扱候判

判

右之通仕切判相用申候、若格別判損シ候ハ、帳元へ相断彫替

可申候、面々勝手ヲ以彫替候儀堅停止之事

天保三辰二月

乍恐以書付奉願上候

一土蔵壹軒 但シ 梁間貳間半  
桁行六間

右者私穀蔵古ク罷成候二付、此度建替申度奉願上候、材木  
之儀者当郷甚左衛門ノ不残同普請二付買請仕候二付、外二  
新竹木伐取不申候、此段被仰上候、奉願上候通御聞濟被成  
下候ハ、難有奉存候、以上

天保三辰年三月

大宮郷願人

升屋治兵衛

松本宗左衛門殿

前書之趣吟味仕候所、聊相違無御座候、奉願上候通被仰付  
候ハ、私迄難有奉存候、以上

松本宗左衛門

御代官所

和泉屋清吉子

仙松

年十六才

右者売場方二而遣ひ、年数五ヶ年余相勤候者死去仕、取仕  
舞申候

右千松仮親分横瀬辻

いづミ屋与兵衛

縁者 下町

石屋金十郎

右兩人立合ニテ取仕舞申候

天保三辰ノ七月四日夜葬礼仕候

諸入用左二候

一金仙寺仕舞忘明迄諸事込ニテ金壹両也

病中相用致候单物壹ツ

寺送り物 外二 袴壹ツ 「」 壹ツ

帶壹ツ 脚半壹ツ

手甲壹ツ 笠御坐添

一右石塔八七月十日相建代金貳両也

下町石屋金十郎江相渡ス

一天保三辰七月廿九日本野上村ノ御差紙

火方盜賊御掛り柴田七左衛門様御組 関根鉄之助様

右御尋之賊、中村義兵衛与申百姓ノ三ヶ年已然十一月中、  
小豆布子ノ壹ツ質物取置候事有之哉御尋御座候二付相改候  
所、右頃御尋之質物帳面二相見ヘ不申二付、去々(寛)虎年益後

質帳面持参、本野上へ罷出候

支配人 中蔵

同郷

松本宗左衛門殿

右之文言書付大家様へ取置有之候

入置申一札之事

一年々暮割并荏代其外諸納物之義其節二取替相納候所、間二

天保四癸巳年十二月廿五日

合兼候節立替金二差支難義至極仕候二付、已来御立替御貸し被下置候様御無心申上候所、御承知被下一同尋仕合二奉

一当秋違作二付穀るい高直諸人難渋二付、左之通り町内少し宛為年暮軒別二相くハリ申候

存候、弥御取替置被下候者、十二月中暮割一同取立金廿両

覚

壹分之利足勘定を以元利共急度相納可申候、若遲滞致候者有之候ハ、右連印之者一同引請早々致返済、少し茂御苦勞

一白中左  
一おふゆ  
一上手例年之外二餅米五升余  
一龜田や  
一平のや

掛申間敷候、尤利金之儀ハ小前へ割合申間敷候、為後日連印一札入置申所仍而如件

一かじや  
一平三郎殿  
一関根  
一藤兵衛殿

天保四癸巳年十二月十一日

大宮郷

半二郎

一与四郎殿  
一春莫屋餅米五升

源四郎

一高野例年歳暮之外二餅米五升  
一友蔵殿

紋右衛門

一久二郎殿  
一善二郎殿

治十平

一政吉殿  
一久米蔵殿

尋三郎

一大黒や  
一上手別家

久木市郎兵衛

一堺屋  
一井筒屋

吉田伊平太

一長二郎殿  
一出浦

一 武兵衛殿例年之外二餅米五升

一 玄行屋餅米五升

一 馬太郎殿

一 与兵衛殿

一 虎助殿

一 安太郎殿

一 弥市殿

一 惣二郎殿

一 弥八殿

一 平吉殿

一 吉兵衛殿

一 喜伝二殿

✂

一 卯之助殿

一 伝蔵殿

✂  
一 五左衛門殿

一 卯之助殿

一 米屋

一 弥三七殿

一 文蔵殿

一 長之助殿組

一 又二郎殿

一 源蔵殿

一 弥左衛門

一 竹四郎殿

一 惣蔵殿

一 おさ乃どの

一 堺屋

一 虎二郎殿

一 大津屋

一 浅見や

一 常吉殿

一 九兵衛殿

一 黒沢屋

一 忠兵衛殿

一 中屋亀吉殿

一 直太郎殿

一 栄吉殿

一 松四郎殿組

惣✂八拾六軒

白米凡五升宛軒別

印廿四口<sup>(三脱)</sup>廿五文宛入ル

一 勝五郎殿

一 吉五郎殿

一 丈助殿

一 正右衛門殿

一 喜代蔵殿

一 要二郎殿

一 仙二郎殿

一 万助殿

一 善兵衛殿

一 利兵衛殿

一 利八殿

一 十吉殿

一 伊三郎殿

一 久米二殿

一 蔵吉殿

一 吉之助殿

✂

一 おミなどの

一 銀太郎殿

一 久二郎殿

一 清兵衛殿

一 喜兵衛殿

一 半兵衛殿

一 左右衛門

一 吉兵衛殿

✂

此入用 一白米四石貳斗四升五合

代

一餅米貳斗壹升五合

代

一印廿四軒分

代七ノ八百文

穀や相庭 七月中 寄居  
小川 二て米八斗七八升

麥貳石貳三斗

八月一日太荒二付六斗七八升ノ六斗貳升位

一九月 六斗ノ五斗七八升 一十月 五斗五六升位

一十一月 五斗貳三升ノ四斗七升 一十二月 四斗壹貳升

麥八斗五升位

水油他水三拾壹兩位

右直段二付、当店白米小売之義者九月中旬ノ時相庭二凡壹合安二売来リ申候、十二月入小売六合五勺ツ、九月中旬ノ米売高凡天石ワト表斗、此正二損金天トワ両見セヘ渡ス

天保五年正月

一月上旬五斗二成夫ノ追々高直

同五月十七日小川ニ而上米四斗也

一去秋ノ米高直二付、白米小売百文二付凡壹合安二売来

次二有

午年米相庭八前二委敷有

一去秋ノ米高直二付、白米小売百文二付凡壹合安二売来候所、

此度御陣屋ノ右売米高御尋二預、則左之通申上ル、尚又御

出役ヘモ此通申上ル

去十月ノ当三月廿九日迄ノ分

凡白米六百五拾七俵 三斗六升八

内百四俵余 安売分壹合宛之ノ高

マトカヘ 此代

外二白米四石三斗 町内ヘ為歳暮配ル分

錢七ノ貳百文

右之通松本宗左衛門様ヘ申上ル

天保五年三月廿九日改、其後引続安売致居候

一此度御出役ノ銘々所持之穀物軒別二御改有之、則當時有穀左之通申上ル

一米貳拾表 但シ四斗入 飯米分

一大麦六表 六斗入 同  
一同引割四表 四斗入 同

✂ 一米百四表卜六斗 四斗入 売物  
一糯米拾五表壹斗 四斗入 同

一麦引割壹表三升 四斗入 同  
一青大豆壹表 四斗入 同

一小豆貳斗五升 同  
✂

右之通松本宗左衛門様へ申上ル

天保五午四月十五日

午三月廿五日

大坂屋内清吉出奔

一去年秋々諸穀高直二付、白米小売百文二付凡壹合安二売来候所、此義当三月廿九日御陣屋々御尋有之、則書付ヲ以委細申上置候、然ル所右安売致候御恩賞として、此度 御領主様々錢五貫文被下置忝頂戴致候

天保五甲午五月十七日

但シ米売高之所八前二委敷控有、且又安売御尋之節八三月廿九日也、其後モ引続壹合安二売来ル、尚此米世上小売相庭七合位二相成候迄八壹合安二売募度心掛二候、但シ八月廿一日迄売申候

天保五甲午年 小川二而穀相庭

正月 米四斗三升 麦石 壹斗五升

二月 上旬五斗 同石 壹斗  
江戸焼後四斗七升

三月 四斗五升 同 同断

四月 同断  
中旬々四斗三升 同断

五月 四斗貳三升 新麦出来九斗  
追々高直四斗々三八位迄 小麦七斗

六月 三斗八升 麦八斗  
廿日頃々四斗貳三升 小麦六斗貳升

七月 差入四斗三四升々五斗 大麦九斗五升々  
七日々六合五勺、十二日々七合 石先迄

次へ

八月

九月

十月

十一月

十二月

同年国本二而一番高

十二月 壹駄但し八斗也

中在寺村

御蔵米

壹兩貳分三朱壹匁六分

天保八丁酉年

但し申年大凶作付

申冬 壹駄貳兩壹分

西六月比 大高直 壹駄付三兩ト壹匁文

同益比 壹駄四兩一分也

從御公儀様大目付江

近來違作之国柄多ク米穀払底二付、諸国酒造之義去已歲迄造  
来米高之三分一相減三分貳酒造可致旨相触候所、今以米価高  
直二下々之者難儀候旨相聞候間、追而及沙汰候迄者去已年  
以前迄造来米高三分貳相減三分一酒造可致候、尤已年以前迄  
造米高并減石之高とも書付二いたし、御料者其所之奉行代官

御預所私領領主地頭々早々可差出候、品二寄不時二改之者差

遣候義も可有之候間、若其節右書付二相違之義も有之八、其  
者者勿論其所之役人迄吟味之上急度可申付条心得違無之様可  
致候

右之趣御料私領寺社領共不洩様早々可触知者也

五月

天保五年六月三日、右御書付割役所々相廻ル、依之左之通り  
書付出ス也

一酒造米高三百廿五石 当店分

内貳百拾六石六斗六升六合 三ヶ貳減高

引残而 百八石三斗三升三合

当年年々三ヶ一酒造米高

一酒造米高貳百石 大坂屋分

内百三拾三石三斗三升三合 三ヶ貳減高

引残而 六拾六石六斗六升六合

当年年々三ヶ一酒造米高

右

天保五年六月

々右之通相違無御座候、以上

村役人

天保五甲午小川寄居穀相庭

小豆

一正月米四斗三升 麦石壹斗五升

大豆

江州犬上郡清水村与兵衛死去  
天保五年八月廿三日夜七ツ時

一二月上旬五斗

麦同断

同 廿四日夜葬式寺にて沐浴也

江戸焼後

大豆同断

一金壹両分 忌明迄渡シ切

四斗七升

小豆同断

穴掘酒壹升

一三月四斗五升

麦

湯かんの節壹升

大豆

外二寺へ壹升

小豆

但シ送り之節此方へ支度物

一四月同断

麦

一手桶壹ツ 衣壹ツ

中旬へ四斗三升

大豆

檣板壹本 銭十文

小豆

四花壹組

一五月四斗貳升

新麦出来九斗

蠟燭立壹本

下旬三八

小麦七斗

白木綿一重切二て

大豆

脚半壹足 但シ麻之紐

小豆

たひ壹足

一六月朔日三八へ三四

麦八斗

帶壹筋

此節熊谷二て

小麦六斗

翌日寺送り物

三斗壹升買売有之候

大豆

夜具折壹



単物沓ツ 遣ス

帶沓

メツ小三斗

一沓 九百九十文 見セ払

一五百九十式文 質物代

一六百文 酒三升代

ノ

一去巳十二月十六日、上田野ニテ梁多市五郎請人上手左金二

殿ニテ取置候質物盜賊物ニ付、此度火方本野上ニテ御役所

ノ御召状ニ付、御請申上候事左ニ記ス

尤右置主市五郎ノ相頼ニ二付盜賊ノ直取ニ相成候

御尋ニ付以書付奉申上候

松平下總守領分武州秩父郡大宮郷名主惣左衛門店質屋利兵衛

江州住宅ニ付、店支配人善吉奉申上候、去十二月中上田野無

宿紋二郎ノ白横麻沓足質物ニ取置候儀有之哉之旨御尋ニ御座

候

此段前書之紋次郎義無宿之義八不<sup>(出掛)</sup> 兼而近辺立廻り存居候

处、外ノ被頼候品之由ニテ、去十二月十一日

一白横麻単反物

質代金 沓両貳朱也

質入いたし度旨申入候处、不<sup>(出掛)</sup>之品共不心付相違モ無之儀二

存、証人無之無判ニ而右之通質物取置候、然ル处右品者前書

之紋二郎盜取候品之由申立候趣被 仰渡 御糺シ請奉恐入候、

依之右品者御旅宿ヘ相納申候

右御尋ニ付奉申上候通り相違無御座候、追而江戸從御役所御

呼出し之節者、村役人差添可罷出旨被仰渡奉畏候、為後日仍

而如件

天保五年九月

武州秩父郡大宮郷

名主宗左衛門店

質屋利兵衛

江州住宅ニ付

店支配人善吉

年廿一才

名主 源四郎

火付盜賊御改

柴田七左衛門様御組

糸賀敬助様

福井嘉七郎様

前文之通御請書差上候

午九月十七日

右一件二付從江戸表御差紙參

同十月四日出立、善吉代源四郎

差添下町吉田や治兵衛殿 罷出

同十月十四日帰店

又御才領御よう二付御呼出し

同十月廿八日出立 相済 差添同断  
代 同断

同十一月十一日夕、帰店仕候

諸商人御冥加銀御請印帳差上申請番之事

近来農間商致候者多、自然農業怠り風俗之猥二も罷成候基二付、御差留二も可相成候処、今般格別之御勘弁ヲ以、右商致候者へ免札御渡し相成候間、以後新規之商堅不相成候、就而者商向之大小二応し少分之冥加銀被 仰付、右助成ヲ以年々取立百姓被 仰候、且大宮郷町内之分八御陣屋附二而、別段之訳二も候間、已後とも商売相始候もの有之候ハ、申出次第免札御渡し二可相成、冥加銀之義も在方半減二被 仰付候

間、此段可相心得、猶委細之義者 御代官より可申達候

十月廿六日

右之通被 仰付候二付、奉畏村内商致候者冥加銀左之通

天保五甲午年十一月

町方 割役松本宗左衛門組

一酒商但酒造米高三貳拾五石

同人抱

銀貳十四匁三分七厘五毛

利兵衛印

一万諸商

同人印

銀貳拾貳匁五分

大坂分左二

一酒商但酒造米高貳百石

五兵衛印

銀拾五匁

一万小商

同人印

銀拾壹匁貳分五厘

末年

当郷諸商人大小口数

三百五拾八口

銀壹貫四百五拾六匁七厘五毛

右者今般農間商致候者江御冥加銀被 仰付候二付、奉畏村方

一同書面之通取調銘々請印取之差上申処聊相違無御座候、依  
之名主組頭百姓代之者一同連印仕差上申処仍而如件

右四口壺箇也

桜木定吉殿行

六十七兩貳分四百三十文損金也

天保六乙未年二月廿二日之夜五ツ過、飯能町大火ニ而凡七拾  
軒余焼失致し候、今店丸焼、尤裏之荒もの入土蔵壱ツ残り其  
外焼失致し候、同店出見せ正醬油蔵之方は迎も大焼ニ而壱ヶ  
所も不残申候

右見舞もの同店々注文ニて古着四拾五品布段五間遣ス

代トワ両斗

外二

同店大家様へ黒椀十人前小天斗、板屋半兵衛殿へ茶漬茶椀五  
ツ、武蔵屋へ同五ツ、中屋清兵衛同善右衛門合住居同五ツ茶  
飲茶碗十人前

右出火之節江戸行諸荷物四箇差送り、今店二有之節ニて右四  
箇之内三箇出シ、残壹箇焼失仕候、其金高左二

一十四兩三分三百八十式文 花色廿包

山形屋治兵衛行之内

一廿壱兩三分 水色卅包

桜木定吉行之分

一十六兩三分 一

万屋与八行分

一十四兩三分三百四十四文 大木しま高しま十一疋貳反

京染物直段二付書上

三分一二付

一常花色 代六匁

一上花色 代六匁一分

一紗紅染 代七匁

練糸目八九十匁々百匁迄

一同 代八匁

百匁々百廿匁迄

一同 代九匁五分

糸目百廿匁々百五十匁迄

一京都へ為登荷物飛脚賃

一目方壱目二付 代七匁五分

早便日限凡廿日余相掛リ

一同 代五匁五分

並便日限凡四五十日掛リ

一京都々下リ荷物

中山道廻し

一 仕立便 日限凡三十日余相掛り 代六匁五分

同

一 並便 同四五十日掛り 代五匁

東海道廻し

一 江戸表へ下し

八日限与申十二三日相掛り 代八匁

右之通当時取引仕居候、以上

未四月

判

松本宗左衛門様

天保六未五月

一 吉田伊平太殿水油塩之間屋当町江相建、御領分村々軒数相  
斗り年分入用高相積り、右巻軒二て御領分村々店々江卸商  
内いたし、已来水油塩魚油迄も右伊平太殿店二て買入外合  
ゝ買入候事不相成候趣御願被差上候二付、故障も無之哉之  
旨 御陣屋々御尋二付、御答申上候趣左二写書相記申候

乍恐以書付奉申上候

一 此度吉田伊平太殿大宮町二水油塩之間屋相建、御領分村々  
軒数相斗り年分入用高相積り、右巻軒二而御領分村々店々  
江卸売いたし、已来私共仕入方之儀他所々不相成様御願被  
差上候二付、仲々間之者共江差障も無之哉否哉御答可奉申  
上趣御尋二付、左二御答奉申上候

一 私共仲々間水油塩旧来商仕来り、是迄仕入之義者江戸行徳  
井川越熊谷寄居小川又八上州筋最寄任便宜、其時々相場聞  
合セ釣合宜數方二て買入出精捌渡世仕来候処、向後当地  
二て仕入口巻軒二限り他所仕入不相成候而者世間相場も不  
相知、且又諸人売方人氣面々之思入ヲ以何れも少々宛者直  
段高下有之候義二御座候間、諸々直段聞合少も下直二買出、  
小売先キ迄精々下直二売捌申度含二御座候間、已来仕入之  
義者は迄通り何方二不限任便宜勝手次第買入仕度奉存候、  
殊二仲間之内賄金之者共者數年取引致候内、追々之払残り  
買先二借用等有之候も、旧来取引仕候故先方以勘弁借用分  
相延異、当用取引無恙致候故自然借居同様二相成、渡世取  
続候族も有之候所、此度相改取引相止メ候ハ、眼前催促被  
致商売取続難二差当り、及迷惑之族も有之歎ケ敷奉存候、  
且融通之者共者諸国取引手広二付、相場下落を見合不用之  
節も多分買置下直二売出し他郡迄も卸商仕候、左候得者相

互二励二も相成小売先々迄下直二売捌、自然当地繁昌之基  
二も可相成哉二奉存候、是迄聊之口銭二而売捌成丈荷高多  
分二相捌申度出精罷在候所、已来小売而已致候様商先無手  
詰候而者、店內大勢扶助之者共者別段難義二も相成候、左  
候得者右様忝軒二限り他所々仕入不相成趣二成行候而者、  
前文奉申上候通仲ヶ間一同難義仕候二付、已来私共仕入之  
義者は迄通り其最寄勝手宜敷方にて買入仕候様奉願上候、  
尤吉田伊平太殿水油塩商売被成候義二仲ヶ間之者共故障之  
筋毛頭無御座候、一向私共仕入方自由相成候様奉願上候、  
此段御聞濟被成下候ハ、一同難有仕合二奉存候、以上

天保六乙未五月

秩父御領分大宮郷

穀塩水油商人 但店初筆

但し仲間之内大原龜吉殿名主故

奥書二相成上ル

御代官所

乍恐以書付奉申上候

一吉田伊平太殿水油塩問屋相建、村々軒数相斗り入用高相積  
り、自分忝軒々御領分村々店々江卸売可致旨ヲ以仕法書被  
差上候間、仲ヶ間ふい之御尋二付右仕法書御写御下ヶ被成  
下奉拝見、是又左二御答奉申上候

一私共仲ヶ間之儀者面々出精次第御領分斗二不限他都迄毛取  
引仕候得共、御領分村々入用高何程二相成候哉膝与不相弁  
候得共、仕入第一二相働諸々出市仕相場聞合何方二不限下  
直之場所二而買入、殊二穀類并諸色仕入序二出走候二付塩  
油之仕入と別段相掛不申、且面々居宅商二候得者家賃修覆  
召仕町掛り店入用杯と申入掛り物無之、相互二励ヲ以成丈  
多分二商仕度、水油忝樽二付其時々相場二忝刃五分歟式刃  
迄之口銭二而取引、又者下直時節買置候者共者相場二不抱  
下直二も売捌仕候所、右仕法書二而者油忝樽二十匁五分之  
掛り物口銭相掛り候趣卸商二者不相当之義、左候得者自然  
小売迄高直二相成可申哉二奉存候

一塩之義も同断、忝表二付忝分五厘口銭相掛り候而者は迄私  
共俵壳致候々高直二御座候

一近来相続諸商内共不景氣二相成候得ハ、都而商向六ヶ敷候  
義二而、右伊平太殿仕法書之通り仕入企、利足其上掛り物  
口銭杯之両様利潤割掛ヶ商仕候而者、先行仕間敷義奉存候  
一塩之義合印仕無印之俵通用不相成趣二候得共、当辺農家者  
家業足り合二寄居小川八幡山鬼石宿々江駄賃被二参候序、  
手遣之油并塩忝式表宛買取中荷二付引取申候、是等者駄賃  
之外少々たり共当所商人口銭同様相除キ至極勝手二相成候

義、私共も手馬差遣し候節者同様中荷二而引取候事共  
毎々御座候、然所合印無之儀被相咎候様二而者村々一体之  
難義二可相成義二乍恐奉存候

右御尋二付細々御答奉申上候、尤吉田伊平太殿私共不精  
高直二も売出し候様被申立候哉二而、御上様御察当も可有  
之恐多奉存候間、已来同人同商売相初候ハ、私共迄弥増励  
二相成候義二付、已来同人売方と下直者勿論聊も高直成義  
者売出し申間敷候、前文之趣旨乍恐御勘弁被成下旧来之通  
私共商売相成候様奉願上候、以上

天保六未五月

穀仲間連印

御代官所

一見せ住居土蔵修覆、但し柱根請下之方不残其外所々取替申  
候、腰巻石灰入たき裾通凡三尺通り不残腰巻致ス、其外  
土戸相改壁ぬりかへ申候

天保六未五月相始メ

一金百両二付 江戸当地迄 六百文  
一金壹朱 同二付 八百文  
一南鐐銀壹朱 同二付 壹貳百文  
一京都為登賃 八まん山と

壹貳目二付 並四匁五分

仕立六匁五分

一桐生行 同所と壹貳目二付 百文  
一江戸行 同断 百五十文  
右

天保六未正月引合

此度御調達金差上置候分不残御下ケ金有之二付、為御冥加成  
丈右上ケ金内二差上旨御代官様と被仰聞、則御請左二

乍恐書付ヲ以奉願申上候

私共去ル文政七申三月中御調達才覚金御上納後、去々巳年御  
上納分是迄利足御下ケ被成下、猶又当年元利共御下ケ可被成  
下旨被 仰聞難有仕合三奉存候、依之右元金之内申年分四分  
方巳年分壹分五厘通り為御冥加献納仕度奉願上候

天保六未年八月

大宮郷

藤岡京屋飛脚賃

外連中一同

升屋利兵衛

御代官所 但し兩度二上ル

同八月廿三日

前書之通弥々御聞濟被成下候二付、文政七申年酉兩年二差上候分

一金貳百五十拾兩元金

内百兩也上ケ金 但し四分通

去々巳年差上候金

一金七拾兩也元金

内拾兩貳分也 但し壹分五リ通り

元金貳口

ノ三百廿兩

内貳口ノ百拾兩貳分也

此度上ケ金仕候

御代官様ノ御受取下ル

右差上金之為御恩賞御紋付御上下地着具被下、并二其身一代名主格二被仰付之趣御書付被下

ノ

寄居大谷孫兵衛殿借店

升屋七左衛門<sup>印</sup>

本印鑑<sup>印</sup>

天保六末八月廿八日小ヶ谷店目代茂助店借二持出ス

土蔵建替願 申年

乍恐以書付奉願申上候

一土蔵壹軒 梁間三間  
桁行七間

右者隣家持二而名主佐金次殿屋敷地之内借地仕私相建置候古土土蔵<sup>(マ)</sup>、此度書面之通建替仕度奉願上候、材木等之義者当郷甚左衛門方ノ買取候二付、私所持之立木等一切伐取不申候、此段被仰上奉願上候通被 仰付被下置候八、難有仕合奉存候、以上

天保七丙申正月

御領分秩父大宮郷

松本宗左衛門抱

願人 治兵衛

地主持主名主

佐金次

松本宗左衛門殿

前書之通吟味仕候処聊相違無御座候、奉願申上候通被仰付被下置候八、私共難有奉存候、以上

組頭 彦助

松本宗左衛門

御代官所

右四口

飯米酒  
其外いろく

天保七申正月より上手借地、質蔵再建普請取掛り

一 凡式百八拾五兩

同二月十二日棟上ケ

大工棟梁 宮地

大和

同

上力ケモリ

栄一郎

棟七間梁三間

一 申渡候儀有之間、来月十三日五ツ時江戸御役所へ可罷出者也

右土蔵諸掛り覺

右御差紙町宿外神田明神下足立屋文右衛門と添書狀二而申參ル

材木代

右御差紙二付六月十三日江都御役所へ罷出候所、去巳歳中

地搗黒鍬

穀高直二付米安売施行等いたし候儀奇特之由二而御誉二預

請人足

り、其上為御褒美金三百足被下置冥加至極難有頂戴仕候

鉄物

右御褒美頂戴金請取之写

銅物

差上申御請証文之事

土石灰

私共儀去ル已歳米価高直之節、米金雜穀等追々差出シ貧民共

大工手間

江救合力等其外奇特之取斗致候二付、行田町百性長兵衛代民

〆

蔵、大宮郷百性斉助店太右衛門代辰五郎、名主惣左衛門店利



兵衛代武兵衛、上田野村百性定右衛門代米助右四人へ金三百  
疋宛、行田町百性茂十郎代喜助、大宮郷名主四郎左衛門店新  
三郎代治右衛門江金貳百疋宛、行田町百性又右衛門代茂兵衛  
江金百疋、右為御褒美被下置候旨右 加賀守様へ御伺之上  
明樂飛驒守様被 仰渡候段、今般被 仰渡御褒美金被成御渡、  
銘々難有奉頂戴候、依御請証文差上申候処如件

天保七申歲六月十三日 松平下総守領分

武州埼玉郡行田町

百性長兵衛代 民藏

同茂十郎代 喜助

同又右衛門代 茂兵衛

差添人年寄 源兵衛

同領同州秩父郡大宮郷

百性才助店

太右衛門代 辰五郎

名主惣左衛門店

利兵衛代 武兵衛

名主四郎左衛門店

新三郎代 治右衛門

差添人年寄 治郎兵衛

同領同州同郡上田野村

百性定右衛門代 米助

差添人名主 又右衛門

山本大膳様御役所

此度御公儀様へ御触書之趣松本宗左衛門殿へ被申渡候  
先年米直段下直之間相庭之障り二茂相成候二付、追而可及  
沙汰候迄都而江戸表へ引受候儀、素人八勿論俛令問屋共二  
候とも一切引受申間敷旨文化三寅年町触有之、奥筋并二関  
八州御領私領寺社領へ茂相触候所、此節江戸表米価高直府  
市中難儀二および候間、在方二て米所持之者共八白米之春  
立、追而及沙汰二候迄江戸内江問屋共八勿論素人迄も勝手  
次第売捌可申上候

一諸国酒造之儀三分一減石可致旨去々午歲十一月相触置候  
所、今以米価高直之段相聞候間、追而及沙汰候迄八去ル已  
歳以前迄造来米高三分二相減三分一酒造可致旨、尤取締方  
其外之儀八是迄之通相心得減石之儀弥以嚴重二相守可申上  
候、若造過等致二おひて八其者八勿論其所役人迄吟味之上  
急度可申付条心得違無之様可致候

一諸国酒造儀三分二減石三分一造被仰上候上八、御貸株之分

茂拝借高之三分二減石可致旨、右酒造株拝借被仰付候御領分村々酒造人共江茂不洩様可被申渡候

八月

天保七丙申八月二日武州足立郡上川田谷村天根良助店

借受ル

家名升屋利左衛門与致ス

店貸十ヶ年限イト

一酒造米高何石

内何石

三分二減

残而何石

当申年三分一酒造米高

右者去巳歳以前迄酒造米高之内三分二相減、三分一酒造可仕旨被仰出候二付、当申歳酒造仕処相違無御座候、以上

酒造人

末二委敷アリ

一此度日野村無宿音吉卜申盜賊、火方盗人御改御出役糸賀植助様へ御召捕二相成、松本宗左衛門殿宅二而御調有之候所

当店質物掛合分六口御取上ケ二相成候分左二記ス

未万式千十番

一壹両口

布子大小式 浦山日向

あわせ式

置主喜右衛門

同羽折壹

単物壹

同万式千七百五十番

一三分口

布子式

右同人

嶋壹反

花色壹反

染いと少

同万四千百六

一壹分三朱口 袷羽折一

上手店

単物壹

置主友蔵

同万四千九十四

一壹分口 〔<sup>(虫)</sup>〕壹ツ

同右同人

申千八百五

一式分壹朱口

袷式

上町

単物一

置主善兵衛

同千七百式

一 式分式朱口 絹物三ツ 橋久水

置主弥七

ノ六口 元金三兩式分式朱

右之通系賀植助様へ御取上ケニ相成、追而江戸表より御呼出し之砌早々罷出へく旨被仰聞候

右盗人掛合質物④店三口ニ而元金三兩式分式朱申付大坂屋二言口元金式朱也、当店分共ノ十口置主七人、右之通質屋三軒置主七人銘々江戸表へ御呼出しニ相成候而者質置主とも各々貧民故甚難儀仕候ニ付、松本宗左衛門様并ニ御役人様御手付之岡引衆御執成被下、質屋壱軒置主言人ニ取つくるい仕度旨御願申上候处、格別之御慈悲を以右御願之趣御聞濟被下置質屋置主とも一同難有奉存候、則右御礼として御上御兩人様へタ 小千 位之花色絹疋宛差上、岡引吉嘉殿へ大ツ其余赤イ

当店分割合タ ワサ出ス

天保七申九月廿五日

ノ

一 此度酒造御改御出役御出ニ付松本宗左衛門殿へ申上ル分  
一 酒造米高三百廿五石

内式百拾六石六斗六升六合六勺

三ヶ式減石分

残而百八石三斗三升三合

当申年三分一酒造米高

右者去巳歳以前迄酒造米高之内三分式相減、三分壹酒造可仕旨被仰出候ニ付、当申歳酒造仕候所相違無御座候

天保七申十月廿四日

酒造人

武州秩父郡大宮郷

升や利兵衛

名主 宗左衛門

閑東御取締御出役

内藤賢一郎様

古酒古米持合在高御改

一 古酒九拾五石

在高

壹駄二付七斗入二而

此駄数百三拾五駄五斗

一 古米拾五俵三斗六升 売米

一同八俵四升

家内廿六人言人二付日二三合宛

壹ヶ月分飯米分

古米ノ貳拾四俵

右之通相違無御座候、以上

天保七申十月廿五日

松本宗左衛門殿

御取締御出役

内藤健一郎様へ上ル

大坂屋分

一古酒四拾六石

在高

壹駄七斗八二而

此駄数六拾五駄五斗

一古米壹斗貳升

売米

一同貳俵貳斗八升

家内拾二人壹人二付日三三合宛

壹ヶ月分飯米

古米ノ三俵

右之通相違無御座候

天保七申十月廿五日

松本宗左衛門殿

御取締御出役

内藤健一郎様へ上ル

末二委敷アリ

天保八酉九月十三日四日

神田御祭礼已前江戸表酒払庭

一池田伊丹物なし、相応之酒売買拾駄二付スト両也、已下エト兩位、尤僅ノ間也、極高直段ツノトワ迄売買有之由、地取引エトワ位ノ売買、鬼石十一屋江戸仕切ヒトワ両也、尤田舎方之内上仕切也、当地辺八矢張マトワ位取引、江戸積之義八去申冬何程江戸積可仕と存候と 御公儀様へ積出し之奉書不致者八積事不成也  
江戸田舎とも一切物払庭

天保七丙申年秋

諸国大凶作二付当店白米小売百文二付壹合安売相初

但シ壹人前貳百文留メ

九月十六日より

一十月十六日迄五合五勺

市日 拾表々拾四五表  
間日 三表々五表

相庭四合五勺

一霜月十一日迄五合

右同断  
右同断

相庭四合

市日八子供相手二而三人宛掛リ詰

尤大混雜ナリ

一同十一日より四合五勺

相庭三合五勺

一十二月七日より五合

此節日二五表均シ

相庭四合

一十二月中

正月十日過七表均

正月迄右同斷

一酉二月六日より大麦百文二付九合

三表均

引割六合

天保八丁酉年

初春より地酒三拾四五兩より四拾兩、極上物四拾四五兩也

七月盆比江戸二而酒船間追々高直之積分也

伊丹池田六拾兩

灘上物五十四兩

地上物五拾兩より貳兩位

同天保七丙申年秋

小川

諸色相庭之控 但シヨリ井相庭ナリ

八マン

一八月上旬

米四斗

麦八斗七升

大豆八斗三升

小豆六斗五升

粟稗類皆無不熟二付相庭なし

一同下旬

古米三斗五升

新米四斗

外同斷

一九月

新米三斗五升

麦八斗

大豆八斗

小豆五斗六升

一十月上旬

米三斗三升

麦七斗貳升

大豆七斗五升

小豆四斗五升

一同下旬

米三斗

麦六斗

大豆六斗五升

綿百九拾兩位

水油三拾兩也

其外諸品平年ヨリ大高直

綿貳百貳三拾兩

水油同斷

綿同貳百七十兩

水油三十五兩

錢六兩六百文

綿三百拾兩

油四拾兩

地廻り酒三十兩より

一霜月中旬	小豆三斗三升	米式斗五升々式斗六升	綿 <sup>同</sup> ミノマキ八百目	厚紙式々四百目
	糯米式斗一升			
	麦五斗式升			
	小麦四斗			
	大豆五斗八升			
	小豆三斗五升			
一十二月	同断	同断	追々高直	
	同断	同断	追々高直	
	同断	同断	追々高直	
一同中旬	同	同断		
	同	同断		
一同下旬	右同断	右同断		
一正月	米少下直式斗七八升	右同断		
	右同断	右同断		
一二月上	米式斗六升	油四拾両		
	麦四斗八升々五斗	綿同断		
	大豆五斗六升			

一二月中旬	小豆壹斗六升	米同断	右断 <sup>(同断)</sup>
	外同断		
同下旬			
一三月	米壹斗八升	水油四拾両	
	麦三斗六升	地酒四十五両々五十両	
	大豆四斗五升		
	小豆式斗五升		

天保七丙申秋諸穀大高直二付当店酒造皆無相休ミ、尤も先達酒造御改御出役御出之節八御趣意之通三分壹酒造可仕旨申上置候得共、是八其後若哉米相庭之下直も可有之哉、左候ハ、少々八酒造も致度存寄候而右株三分壹造之書上ケ致置候得共、其後引続穀物大高直世上不憚<sup>(力)</sup>最早此後格別之下直も有之間敷見込、依之此度相改当店酒造当冬八弥以相休ミ二決着仕候、則酒方人夫相減申候

天保七申十一月十四日

当郷酒造当年三分一造り  
并古酒有高酒株由来銘々書上之写

覺

酒造株高百三拾石

酒造米高三百石

松本<sup>(3)</sup>下總守領分

武州秩父郡大宮郷

酒造人名主小伝次改名

一三分壹造米高百石

市郎兵衛

是者同郷茂右衛門所持之株天保三辰年中双方領主役所江願之上讓受、酒造米高之儀者天明八申年文化元子年両度之書上高二而増減等無御座候、尤冥加永八上納不仕候

外二當時古酒在高七駄

酒造株高拾石

右同領分

酒造米高百八拾石

同州同郡同郷

酒造人休左衛門倅

一三分壹造米高六拾石

名主 半次郎

是者元早川八郎左衛門様御支配所同国人間郡黒岩村百性金兵衛所持之株酒造米高六拾九石之处、享和三亥年中双方願之上讓受、文化元子年中増造米百拾壹石領主役所へ願之上都合酒造米高百八拾石被仰付、冥加永百貳拾五文壹分宛伊奈半左衛門様御役所へ年々上納仕候

外二當時在高古酒六駄

酒造株高五拾石

右同領分

酒造米高百石

同州同郡同郷

一三分壹造米高三拾三石

酒造人百性 伝兵衛

是者松居利八所持之株文化三寅年領主役場へ願之上讓受、尤冥加永之儀者上納不仕候

外古酒之分当八月迄二売払無御座候

酒造株高七拾九石壹斗

右同領分

酒造米高三百廿五石

同州同郡同郷

一三分壹造米高百八石

名主宗左衛門店酒造人 利兵衛

是者旧来所持酒造株二而、天明八申年書上酒造米高貳百拾石之处、文化元子年中増造米百拾五石願上、都合酒造米高三百貳拾五石願之通被仰付、尤冥加永八上納不仕候

外當時在高古酒百三拾五駄

酒造株高百拾三石貳斗

右同領分

酒造米高貳百八拾石

同州同郡同郷

一三分壹造米高九拾三石 名主四郎右衛門店酒造人 新三郎

是者旧来所持酒造株、天明八申年書上高二而其後増減無御座候、尤冥加永八上納不仕候

外當時在高古酒拾壹駄

酒造株高七拾石 右同領分

酒造米高貳百石

同州同郡同郷

酒造人

一三分壹造米高六拾六石

百性万蔵店酒造人 五兵衛

百性 伝兵衛同

是者同郷同清兵衛所持之株、天保三辰年中双方領主役場江願之上讓受、尤冥加永上納不仕候

外當時在高古酒六拾五駄

酒造株高六拾石

右同領分

酒造米高貳百八拾石

同州同郡同郷

家主名主 宗左衛門

一三分壹造米高九拾三石

百性小兵衛店酒造人 太郎左衛門

家主名主 四郎右衛門同

是者旧来所持之株二而、天明八申年中書上酒造米高百八拾石之处、文化元子年中増造米百石願上、都合酒造米高貳百八拾石願之通被仰付候、尤冥加永者上納不仕候

外當時在高古酒五拾七駄

右之通少茂相違不申上候、以上

天保七丙申年十一月 右

酒造人

名主 市郎兵衛印

与頭 久兵衛同

酒造人

名主 半次郎同

与頭 国五郎同

關東向御取締御出役

山田茂左衛門様御手附

百性小兵衛店

酒造人 太郎左衛門同

家主百性 小兵衛同

右差添村役人惣代

名主 宗太郎同

同 伊平太同

酒造人 新三郎同

家主名主 百性万蔵店

酒造人 五兵衛同

家主百性 万蔵同

家主名主 新三郎同

酒造人 五兵衛同

家主名主 宗左衛門

酒造人 利兵衛同

家主名主 宗左衛門

酒造人 利兵衛同

家主名主 宗左衛門

酒造人 利兵衛同

家主名主 宗左衛門



吉田左五郎殿

山本大膳様御手代

太田平助殿

同御手附

内藤賢一郎殿

同御手代

小池三助殿

同

須藤保次郎殿

酒造拝借株分

天保四巳年拝借

鑑札高五拾石

此三分壹拾六石六斗

一当造米高拾貳石

松平下総守領分

武州秩父郡大宮郷

酒造人百性

重五郎印

与合惣代

奥右衛門同

村役人惣代

名主 宗左衛門

天保四巳年拝借

鑑札高五拾石

此三分壹拾六石六斗

一当造米高拾貳石

右同領分

同州同郡同郷妙見社領

酒造人

名主 喜兵衛同

与頭 嘉兵衛同

天保七申十月

御名宛

前同断

関東在々より酒江戸出し樽数分量定

此度御出役被仰渡候条々

一当申年酒造三分壹造之儀先達御触有之、猶今般御料所村々酒造四分壹造被仰出支配く被達有之候二付、追々自分共近村不時二相改、聊たりとも過造いたし候者者嚴重吟味之上其筋へ差出候、且私領村々之儀も御料所四分壹造被仰出候上者右二准シ、成丈減造為致候様御勘定所より其筋へ御沙汰有之候二付、是又精々酒造人とも心得違無之様大小惣代共より兼而可申達置候、以上

申十二月

今般酒造減石中関東在々より江戸入津高分量左之通

中川改之分

一 貳万四千九百樽迄

橋場改之分

一 貳千百樽迄

永代橋直乗之分

一 五百樽迄

右之通酒造減石中江戸積出し樽数分量御定二相成、当郷中  
よりも以来江戸積樽数書付を以可申上旨被仰渡候二付、則  
当郷中より酒江戸積出し一切不仕趣申上候

申十二月

郷中惣酒造人

連印

右酒造人名主家主

連印

御名宛右同断

川田谷蔵々米引取候二付関東御取締様へ差上候願書与

乍恐以書付奉願上候

松平下總守領分武州秩父郡大宮郷役人宗左衛門店利兵衛、牧

野耕治郎知行所同州足立郡上川田谷村良助店利左衛門奉申上  
候、右利兵衛酒造渡世罷在候所、当四ヶ年已前巳年大違作米  
穀高直二付、貧民為救所時相庭々百文二付壹合安宿在共売出  
し、新穀出来迄売続夫々貧民之救二相成候、然ル二当申年之  
義暑中々不時之冷氣二而諸作物共大違作、米穀稀成高直貧民  
難儀困窮仕候、依之御仁恵之御触度々御座候二付、奉請伏急  
度相守罷在候、然ル処秩父郡大宮郷之義者山中谷間之場所故、  
豊年之年柄二而茂其所之穀物二て者夫喰不足仕、買入二而其  
時々相極罷在候得共、当年者稀成義二而必至与難渋仕儀罷在  
候二付、矢張四ヶ年以前巳年通当十月中々所時相場二白米百  
文二付壹合安宿在共売出し、夫々貧民之救二相成候処、此節  
米買入一切差支新穀出来迄売難相成、左候得者貧民救之手  
段も無之歎々敷度奉存候、然ル処前書奉願申上候良助店利左  
衛門義同渡世仕酒造米手当二少々買入置候米穀御座候得共、  
御趣意二付先達而御請書奉差上候通減造仕候上者江戸廻米不  
致与奉存候処、此度貧民為手当買入度趣二付差送り度奉存候、  
尤双方役人共篤与相糺候処、全利欲二抱り御後闇々儀二者毛  
頭無御座候間、何卒以御慈悲願之通被為 仰付被下置候八、  
貧民之救二相成偏二御憐愍与難有仕合二奉存候、以上

天保七申年十二月

武州秩父郡大宮郷

名主宗左衛門店

利兵衛

右名主

宗左衛門

同州足立郡上川田谷村

良助店

利左衛門

右

良助

村役人惣代組頭

要助

関東向御取締

御出役中様

右之通以書付御取締小池三助様へ差上ル

ノ

黒須村升屋治兵衛店酒造過造有之由二付御改二相成候而済

方左二

御糺二付以書付奉申上候

稲富茂太郎知行所武州入間郡黒須村名主武兵衛借家酒造人

治兵衛奉申上候、今般寄合過仕込仕候義御聴込、酒造蔵御改之上仕末御糺二御座候

此段私義同国秩父郡大宮郷出生二而、当七ヶ年已前天保元寅年々右黒須村名主武兵衛借家いたし、同人所持之酒造株相對二而借受、其筋之義者武兵衛名目二而同年々造米百八拾壹石五斗之極高二而、酒造之義去ル巳年已前迄造米高三分式減石三分一酒造可致旨御触有之、其後各々様方御廻村酒造人共御呼出し歩合造被仰出候上、尚古米ヲ以新酒造差止之義御奉行所々被仰達候趣ヲ以嚴重二被仰渡、御証文差上候段前条御趣意之筋武兵衛々逸々申聞相守奉請伏罷在候处、今般元造過仕込之趣入御聴不時御改村役一同為御立会御見分御座候所

一酒造米高百八拾壹石五斗

此三分一造米高六拾石

内

当仕込高

元造米高六石

此添糲式石四斗

此漬米九斗六升

是者元造米六斗ヲ一分元与唱、同壹石式斗ヲ壹組与唱ひ、

都合元書面之通此度仕込候分

外

掛米六拾石

此添糶十八石

此漬米七石式斗

是者前書元壹組二付造り上迄掛米十式石糶三石六斗宛追々  
二掛増五組分書面之通、是<sup>レ</sup>漬米可致分、尤出来二より  
少々、者掛米高下有之候

合米七拾三石三斗六升

但漬米高

三分一造米高<sup>レ</sup>差引

米拾三石七斗六升過造二可相成分

右之通相違無御座候、元造仕込高二而者掛米仕出惣漬米高  
過二相当リ、右者此節酒直段一般二高直二相成、当時高直  
之米買入仕込候而茂格別之利潤二相成候義也、泥二三分一  
丈ヲ十分二仕込候様取扱候者共江申付為任置候所、今般不  
時御見廻り御改請、逸々御糺之上元造過仕込二相当候義、  
全利欲迷ひ右始末二至り候段一言之無申披、今更先非後悔  
奉恐入候、此上者御慈悲奉願上候

右御糺二付相違不申上候、以上

申十二月

右治兵衛

家主名主 武兵衛

与頭 八左衛門

閑東御取締御出役

山本大膳様御手代

小池三助殿

須藤保次郎殿

直原喜作殿

乍恐書付ヲ以奉願申上候

伊奈半左衛門支配所武州人間郡所沢村酒造人名主助右衛門、  
稻富茂太郎知行所同郡黒須村名主武兵衛借家酒造人治兵衛一  
同奉申上候、当申年諸国酒造之義三分一御触有之、其後各様  
方御廻村右御趣意嚴重二被仰渡奉承伏罷在候所、今般治兵衛  
歩合過造仕候義御聴<sup>マツ</sup>二込<sup>マツ</sup>、酒造蔵御見分全十三石余二相当リ、  
元造有之有<sup>マツ</sup>之分外仕込不仕者へ借用可仕旨被仰渡有之、然ル  
所助右衛門義酒造米高式百五拾石稼来、追々減造御触有之、  
今般四分一造六拾式石仕込可仕処未元造手当不仕候二付、右  
治兵衛過元造り分助右衛門引請度双方掛合行届<sup>マツ</sup>候二付、讓  
請渡之義御聞濟被成下度此段奉願上候、以上

天保七申年十二月

稻富茂太郎知行所

武州人間郡黒須村

名主武兵衛借家

酒造人 治兵衛

組頭 八左衛門

名主 武兵衛

伊奈半左衛門支配所

同州同郡所沢村

名主助右衛門煩二付

名代与頭 四郎右衛門

年寄 源兵衛

関東御取締御出役

山本大膳様御手代

小池三助殿

須藤保二郎殿

直原喜作殿

✂

黒須大家武兵衛殿へ上ル書付写

御糺二付以書付奉申上候

稻富茂太郎知行所武州人間郡黒須村名主武兵衛奉申上候、私借家人治兵衛酒造株相對二て貸渡候始末御糺二御座候

此段私義高十六石余所持、家内九人暮シ農業之間酒造相稼罷在候所追々身上向手廻り兼、当七ヶ年已前天保元寅年中、同郡高麗郡真能寺村喜兵衛店請人二て同州秩父郡大宮郷治兵衛借家為致、相對ヲ以所持造米高百八拾壹石五斗之極高酒造蔵諸道具一式貸渡同人江相稼置候所、近年諸国違作相続米価融通乏敷、追々歩合造御触有之、当七月中去ル巳年已前迄造来候米高之三分二相減三分一酒造可致旨御触有之、引続古米を以新酒仕込差止メ之義御奉行所へ被仰渡候趣各々様方へ御廻狀ヲ以被仰達、尚又御廻村酒造人共御呼出し、右歩合之外過造者勿論成丈減造可致旨御取締筋厚御教諭一同奉承伏、右之趣前条治兵衛江心得違不仕様得与申聞置、当十二月上旬へ地頭用二而出府罷在候所今般過造仕候義御聴二入、酒造蔵村役人共為御立会御改逸々御糺二て、全歩合之外拾三石余過元造仕候義二至リ、私御呼出し御糺御利解二而相對貸株之義御法度之義も不相弁一己之存寄ヲ以貸置、右様過造仕候義出府与者乍申平常心付方不行届奉恐入候、何分此上者御慈悲被成下置奉願上候

右御糺二付相違不申上候、以上

天保七申十二月

右名主武兵衛

与頭 八左衛門

關東御取締御出役

山本大膳様御手代

小池三助殿

須藤保二郎殿

直原喜作殿

右之通願書被差上候

ノ

天保七丙申年十二月廿七日

一 当秋穉成違作二付諸人難洩二付町内為年暮相配リ候処左二

覚

一中左

下手

一 お冬

一 虎吉

一 平三郎

一 上手 外二例年歳暮

一 彦助 外二茶三ツ添

一 单吉

一 与四郎

一 定吉

一 高野 外二例年歳暮

一 春莫 餅米

但シ借米五升

一 龜二郎 同人親

一金二郎

一 友蔵組

一 政吉

一 吉太郎

一 弥平二 不受

一 久米蔵

一 岩太郎

一 およし

一 長二郎母

一 茂吉 外二茶三ツ

一 同人店主

一 正兵衛

一 武兵衛 例年歳暮之外

一 玄行 餅米

一 馬太郎

一 吉蔵

一 虎助

一 安太郎

一 弥市

一 惣二郎

一 正兵衛店

一 平吉

一 おミち

一 喜伝二

一 同人店

一 卯之助

一

一 甚左衛門

一 弥八

一 義兵衛

一 吉兵衛

一 文蔵

一 安五郎

一 又二郎店主

一 出浦

一 要助

一 龜二郎

一 宗蔵

同人親

一 藤兵衛

一 喜兵衛	一 仁兵衛
一 伝蔵	一 利四十九郎
一 嘉助	一 栄吉 茶三ツ添
一 福蔵	一 半右衛門
同人店	一 勇蔵
一 弥市母	一 吉五郎
一 長之助組	一 甚右衛門組
一 亀太郎	一 要二郎
一 喜右衛門 茶三ツ添	一 万助
一 竹四郎	一 茂二郎
同人店主 <sup>(2)</sup>	一 宗五郎
一 虎二郎	一 久米七
一 松二郎	一 浅五郎
一 九兵衛	一 おみな
一 忠兵衛	一 伊太郎
一 直太郎 茶三ツ添	一 久二郎
一 松四郎組	一 清兵衛
一 勝五郎	一 喜兵衛
一 丈助 茶三ツ添	一 高院
一 喜代蔵	一 左右衛門

一千二郎	一 おきん
一 善兵衛	一 おみつ
一 利八	左金二召抱左官
一 伊三郎	一 市五郎
一 倉吉	
此外いつミヤ店	
一 広蔵	
左金二召抱	
一 清七	
九拾五軒 白米五升ツ、	
印 錢三百文ツ、	
白米高 四石七斗五升	
貳斗六升かへ此代十八兩壹分百廿三文	
錢高 七 五百文 但し廿五人分	
又外二 野坂按摩慶テキへ五升	
馬場甚蔵へ五升遣ス	
申十二月廿八日夕	
米安売損金店卸控	

一 七百九拾七兩卜廿六文

米仕入高

申九月十六日々当正月八日迄

一 五百五拾五兩貳朱四十貳文

売高

一 一百三拾四兩壹分三朱百十八文

米残米凡百貳表

一 二口ノ六百八十九兩貳分一朱百六十文

一 差引百七兩壹分貳朱百六十八文 損金

一 但し此損金之内へ町内年暮ニ配米毛入テ

一 天保八丁酉正月九日改

一 此度御公儀様より銭相庭引上ケ諸色直段下ケ可仕御趣意御  
触被仰渡候二付、諸商人仲間一同相談之上諸色直下ケ取極  
左之通

一 白米百文二付改四合

一 引割百文二付改五合

一 大麥百文二付改七合五勺

一 小麥百文二付改七合

一 大豆百文二付改八合五勺

一 小豆百文二付五合五勺

一 塩百文二付壹升

一 醬油壹合代改拾壹文

一 酢壹合代改拾四文

一 水油壹合代改七拾貳文

一 糸わた百文二付改十三匁五分

一 せん番壹本代改七文

一 一つけ木壹わ代改七文

一 半紙壹帖代改貳拾貳文

一 切元結壹把改廿六文

一 輪日改七文

一 蠟燭壹ヶ代改拾壹文

一 上茶百文二付改貳百匁

ノ

一 銭改六ノ貳百文

右之外諸色仕入方格別相働成文下直ニ売出し可申候

天保八酉二月十三日

松本宗左衛門殿

諸色商人仲間中

一 生酒壹升 五百文売改四百五拾文

一 諸白壹升 四百五拾文ウリ改四百文

一 糠壹表代改壹ノ三百文

一 粕壹表代改壹ノ三百文



右之通二御座候

仲間

大家様へ去秋中へ売米損金何程候哉御尋二付左通申上候

去九月中へ当正月八日迄分

一金百八兩貳分三百四十四文

米売損金高

正月九日へ三月五日迄

一金三拾兩ト六百四十匁文

米麦売損金分

へ百三拾八兩貳分九百八拾五文 外二浦山施行八不申上候

書違

酉三月六日

右申上候

松本宗左衛門様

大家様へ去秋中へ売米損金何程哉御尋二付申上候

売米五百八拾表之内

安売高

一白米百拾八表貳斗六升八合

但シ壹表三斗六升入

此元直段

金百四拾貳兩壹分貳朱七百七十七文

但し兩二ならし三斗かへとして

右者去九月へ当正月迄百文二付壹合安売之分全損金分

一白米拾三表壹斗貳升

但し同断

此元直段

金拾六兩也

同断かへ

外二錢七へ五百文

右者去申十二月廿八日町内并外共九拾六軒 其内貧家廿五

軒江錢三百文宛右米之中江入テ為歲暮相配リ申候

大麦九拾七表之内

安売之分

一大麦拾五表 但し六斗入

尤此内挽割二致候分共

平均五斗かへ二して

代金拾八兩也

右者当二月朔日へ三月四日迄安売致候分 但し挽割共一同

二相成候故 百文二付何程と申安売駈与相訳リ不申候

右

酉三月六日

松本宗左衛門様へ書上ル

ノ

右之

一 売米五百八拾表

此代金六百七拾七兩貳分三朱百十八文

此錢四千貳百七拾四ノ八百文

右通二付壹合安之積リ

右申上候金高也

ノ

一 去秋以来穀物追々高直ニ相成貧民必至与難洪二付、当御領

分中身本相応之者ノ銘々出金、貧民助成可致旨ニ而夫々金

高割付被仰付、則当店分金四拾兩出金也、但シ御領分八千

石ニ而ヒノ兩余出金

去九月ノ当二月三日迄

一金ツノト兩 米安売損金

一金トヒ兩 去冬浦山へ施行

一金トヒ兩 当正月三月迄妻安売損金

一金マト兩 当三月御陣屋ヨリ被仰渡出金施行分

麦売高拾俵四斗三升九合五勺

一 安売分 貳俵ト八升七合九勺

但し壹表六斗八

此元直段金三兩壹分拾三文

是者申三月六日ノ廿三日迄

米売高三俵ト壹斗八合之内 但し白三斗六升入

安売分

一 貳斗九升七合

此元直段壹兩貳分也

是申三月十一日ノ同十六日分迄小売相庭百文二付壹合安二

仕、右六日之間平均書面之通り全安売之分ニ御座候

江戸酒直段

八月十日相場

上 地酒ワトヒナルト 但し拾駄二付

上 池田伊丹上物エトワ位マテ

当地近辺

一 マトワ位 江戸表此後追々高直

大目付江

世上通用金慶長已來度々吹替二付而者、自然金位古今異同有之義者勿論之事二候間、兼而悉最上之位二吹改之御趣意も有之候得共、不容易義二付、此度慶長金位之通り新規之判金吹立、壹枚二付金五兩通用之積被 仰出候間、銀錢共<sup>とも</sup>兩替小判壹分判式朱金同様之割合二相心得無滞可致通用候一右五兩判吹立并小判壹步判をも位才<sup>處</sup>上吹立被 仰付候、右二付而者金子之員數も相減し候間、世上融通金相増候ため小判壹分判をも壹兩二付五分目方を減し吹替被仰付候条、兩替是迄之通り相心得無滞通用可致候、尤引替日限等之義八追而可及沙汰候

一貳朱金通用方之義八是迄之通相心得、且貳分判之義も壹朱金同様追而通用停止可被仰出候間、兼而其旨可相心得候  
右之通国々江可触知者也

七月

右之通可被相触候

大目付江

古金銀其外引替方并引替所之義当西十月迄是迄之通被差置候段、去申十月中相触候所追々引替相済候得共、未だ残之分も不少儀二有之、勿論右引替方二付而者諸雜費等可相掛訳ヲ以、

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間「覚」(末永・本村・上野山)

是迄古金并真字貳分判引替差出し候もの、引替所迄道法相隔候分八、金百兩付壹里銀五分宛之割合ヲ以諸入用被下候所、向後八道法之遠近二不抱古金百兩付拾兩宛為御手当被下候間、古金所持之者八聊も不貯置当十月を限り引替可申候、若其上二も貯置候者於有之者嚴敷可及沙汰候条、其段兼而相心得候様御料八御代官私領八領主地頭々急度可被申付候  
右之趣可被相触候

七月

天保八年丁酉八月十九日

当地へ廻状

酒造米高御改帳写

武州秩父郡大宮郷

一酒造米高三百貳拾五石

内貳百拾六石六斗六升七合

三分貳減

残而

百八石三斗三升三合

当西年三分壹酒造米高

右者去巳年以前迄酒造米高之内三分貳相減三分壹酒造可仕旨被仰出候二付、当西年右之通酒造仕候処相違無御座候、

以上

大宮郷酒造人

利兵衛

右之通(ママ)無相違無御座候、以上

大宮郷酒造人

五兵衛

天保八丁酉年十月

右之通相違無御座候

割役 松本惣左衛門

割役 松本惣左衛門

組頭 吉助

御代官所

右式ヶ条共請印致差上ヶ申候、以上

御代官所

西十月十一日

酒造米高御改帳写

一 酒造米高貳百石

内百三拾三石三斗三升三合

三分貳減

残而

六拾六石六斗六升七合

当酉年三分一酒造米高

右者去巳年以前迄酒米高之内三分貳相減三分壹酒造可仕旨  
被仰出候二付、当酉年右之通酒造仕候处相違無御座候、以

上

天保八丁酉年十月

一 当年地廻り酒直段格別高直直段売出し候二付、元方米仕入  
割合ヲ以下直二売出し可申旨被仰付候二付、右御請致差上  
申候、但し請印仕候酒造人利兵衛

天保八酉十月十日

右御割所久保市郎兵衛様方へ罷出申候

但し大家様出府中

関東取締御出役人衆中

改

右頭書御陣家へ願相出申候茂御出役同様之願二御座候、  
以上

新酒願之写

上  
大宮郷割役松本宗左衛門殿  
御届書  
治兵衛

上  
大宮郷割役松本宗左衛門印  
御届書  
百性万蔵店 五兵衛

十月十七日差上申候

乍恐以書附御届奉申上候

元酒造高三分壹分

一酒造米高三百廿五石

内米貳百十七石

当九月廿日ノ新酒造相始申候

三分貳減

残而米百八石 当酉年三分一酒造米高

来ル十二月五日ノ寒酒造相始申候

右之通当酉年私酒造仕候間御届奉申上候、此段被仰上可被下候、以上

大宮郷酒造人

治兵衛判

天保八酉年九月

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』（末永・本村・上野山）

松本宗左衛門殿

前書之趣相違無御座候二附奥印仕差上申候 以上

割役 松本宗左衛門

御代官所

乍恐以書付御届奉申上候

元酒造米高三分壹分

一酒造米高貳百石

内百三十四石

三分貳減

残而六拾六石

当酉年三分一酒造米高

当九月廿日ノ新酒造相始申候

来ル十二月五日ノ寒酒造相始申候

右之通当酉年私酒造仕候間御届奉申上候、此段被仰上可被下候、以上

天保八酉年九月

松本宗左衛門殿

大宮郷酒造人 五兵衛

前書之趣相違無御座候二付奥印仕差上申候

名主 峯八

割役 松本宗左衛門

御代官所

天保八酉年十一月

一 壹分銀吹立御触<sub>カ</sub>通

一 五兩判十一月朔日<sub>カ</sub>通用并小判<sub>カ</sub>歩判引替之義御触<sub>カ</sub>通

一 古金銀引替所之義御触<sub>カ</sub>通

為世上通用此度位最上之銀ヲ以新規<sub>カ</sub>分銀吹立被 仰付候

間、右<sub>カ</sub>分銀四ツヲ以金<sub>カ</sub>兩之積リ、尤銀錢共兩替<sub>カ</sub>朱銀

壹朱銀同様之割合相心得無滯通用可致候

一 通用銀之義此度吹直被仰付候条、兩替等是迄之通リ相心得

無滯通用可致候、尤引替日限等之義者追而可及沙汰候

一 貳朱銀<sub>カ</sub>朱銀通用方之義者是迄之通リ相心得、且貳朱銀之

義無程通用停止可被仰出候間、兼而其旨可相心得候

右之趣国々江可触知者也

十月

右之趣從 公儀御触有之候間可被相触候

十一月十三日

惣御代官中

御勘定奉行

大目附江

此度新規吹立被仰付候五兩判之義十一月朔日<sub>カ</sub>通用可致、

通用小判<sub>カ</sub>分判者同月十五日<sub>カ</sub>追々引替可遣候、尤有来小判<sub>カ</sub>分判之義も追而沙汰二及候迄者新金取交、受取方渡方兩替共無滯通用可致、上納金も同様可為事

一 小判<sub>カ</sub>分判引替之義、譬者皆小判<sub>カ</sub>皆<sub>カ</sub>分判二而差出候而も、

小判七分<sub>カ</sub>分判三分之割合ヲ以引替<sub>カ</sub>引替<sub>カ</sub>候筈二候条、十一月十五日より別紙名面之者方へ差出引替可申事

一 武家其外共町人江相對二而申二付、右名面之者共方へ差出

引替候義も勝手次第二候事

一 引替可差出小判<sub>カ</sub>分判共員数相知候事二候間、貯置不申

段々引替可申候、若貯置不引替者相知候ハ、吟味之上急

度可申付候事

右之趣可被相触候

十月

右之趣從 公儀御触有之候間可被相触候

十一月十三日

惣御代官中

御勘定奉行

本町<sub>カ</sub>丁目

後藤三右衛門役所

駿河町

三井組為替御用取扱所

本賣屋町

後三谷三九郎

本兩替町

十人組前為替御用取扱所

室町三丁目

竹原屋文右衛門

上槓町

泉屋勘兵衛

金吹町

播磨屋新右衛門

同所中

井筒屋善二郎

神田旅籠町

石川庄二郎

以上

西十一月

松本宗左衛門

### 大目附へ

古金銀真字式分判古式朱銀毫朱金等引替所之義、当酉十月

迄被差置段去申年相触候所、今以引替残り有之候間、引替

所之義尚又来戌十月迄是迄通被差置候条、古金銀其外所持

之者者来戌十月を限り急度引替可申候

### 吉田絹市一件之事

去ル天保八年酉年霜月中旬、当絹仲間へ相願候二付寄合致相

談取極り、九年戌三月中、絹仲間代買十式軒之内二而兩人宛

吉田市へ相立申候、若尚又外へ引合二相成候者八勝手次第相

立候趣、御領主様へ書面ヲ以申上候所御聞濟二相成、吉田地

頭所々当領主様方へ厚ク御礼有之、右二付此末々迄右兩人宛

替く二相立候趣、則右請書御領主様江差上申候二付、右仲

間世話人一統連印致、其趣請書差上申候、則天保九戌閏四月

十七日御咄之上印判致相定り申候、以上

天保九戌閏四月十七日控置申候

十一月十三日

御勘定奉行

惣御代官中

右三通從 御公儀様御触書之趣奉承知、店借抱之者迄不洩

様可被申聞候、已上

御百姓中

一草字式朱判之義も毫朱金同様追而通用停止可被仰出旨先達

而相触候趣も有之候間、所持之者者後藤三右衛門役所并江

戸京大坂其外在々二而、当時引替御用相動候者共之内へ

早々差出引替可申候

右之趣遠国末々迄得与相心得候様御領者御代官私領者領主

地頭々入念可被申付候

十月

右之趣可被相触候

戊五月十四日改

見世方

佐吉

右之者当戊三月廿二日昼小鹿野々山中へ紙仕入ニ差遣候所、心違ニ而外へ遊参候、同廿五日帰店仕候所、其儀見世方支配内々致置候所、其後失体不埒之筋合心得無之私<sub>ミ</sub>成事斗致候付其旨帳本へ申通候所、其旨帳本々同人江相尋候所、以之外筋違之不埒故ニ、五月十四日二帳場方へ見世支配申通候間相改候上、五月十八日二飯能升屋御店へ相預ケ置申候  
此段急度相印置申候

天保九戌戌五月廿五日九ツ時死去、同日暮方葬式致ス

但し寺ニ而沐浴也

江州野洲郡野村

惣右衛門子和吉

年十六才

右之者午四月七日相下し、出入丸四ヶ年後質方ニ召遣居申候、死去ニ付取仕舞仕候

右諸入用左ニ相印申候

一金毫両也 寺へ渡し切

但し忌明迄諸色共

右送候節此方々支度物

一 桶壺ツ

蠟燭立壺本

一 手桶壺ツ

衣壺ツ

一 桶杓壺本

銭かくし銭共拾文遣ス

一 四ヶ花壺ツ

一 きやはん壺足

かんむり壺ツ

一 たひ壺足

づだ袋壺ツ

但しほか式守入ル

一 帶壺すし

右白木綿一重ニ而麻紐也

一 穴堀酒壺升

但し其節念仏講穴堀六人

一 湯かん二同壺升

外ニ此番式人

一 送候節寺へ壺升和尚様へ遣ス

八人

此番 但し松本卯之助殿

出浦亀次郎殿

翌日寺送り物品付

一 布子壺ツ

一九百七十式文 見世方弘 色々代

一 単物壺ツ



一帯巻ツ 一八百三十式文 色々青物 とつふ代払  
一手掛巻筋

代三勾少シ斗 一九百文 酒三升代 五郎兵衛払  
外二笠巻ツ

こさ巻枚遣ス

天保九戌戌五月廿五日取仕舞致候

髪結与四郎引替り跡三郎治郎方江引渡候二付

借金濟方之控

一右与四郎貸左二

一壹朱式百四十五文 帳ば 一十三両貳分二朱 見世

一壹兩三 四百九十式文 古手 同五十四文宛

一六兩壹分式朱三百九十式文 売ば 一五 六百十五文

酒は

廿貳両貳分式朱式百四十五文

右濟方出来兼候二付無抛証文取極メ申候

右貸高 廿貳両貳分式朱式百四十五文

内拾五両者

右巻ケ年二五両宛

三郎治郎引受

証文二取極メ申候

三ヶ年二相濟仕候

引 七両貳分式朱式百四十五文 不足かし

右之不足当七月盆二勘定不残相濟対談二仕候

右之証文貸之儀ハ、当戌年ノ子ノ年中二巻ケ年二五両宛三ヶ年二相濟申候引合ニ而相定メ申候、右様之儀ハ跡取極リも不宜敷二付、最初相断申候ヘ共、借シ金濟方も出来兼候趣段々相願候二付、無抛取用ひ右様取極メ申候、乍然跡々之儀宜敷相断申置書添迄取置申候、以上

天保九戌六月二日引替二相改

大家御隠居様御死去之節

御年七十七才

御香義 大ツ 先年之通り

外椎茸中葉大袋 代ツム

忌中御念仏見舞 但し三文宛

まんちう 百五十

御病中 白砂糖壹斤

御どき之見舞中 菓子遣ス

但し小チム余

御忌明 金貳朱 但し五人呼れ行

外二

庄兵衛様方へ香義

ツム遣ス

天保九戌七月廿三日 御逝去

子十一月廿九日

大家長子新九郎御逝去

御十九才

右香奠三百疋

天保十亥

穀蔵建 酒壺斗位

何れ後為普請ニ祝義可賈由被仰候間

同十壺

漬物蔵

同十三

文庫蔵 糯米壺俵

生酒伊丹壺本進上

江戸呉服問屋行事方より申来候書面之趣左二印

一筆啓上致候、秋冷之砌ニ御座候所先以其御地各様方愈御堅  
勝可被成御座候、珍重之御儀奉存候、然者諸国より近年呉服物

持下り御当地におゐて直売被致候者多人数有之、追々不取締  
二罷成、当仲間取締ニ相抱り不容易儀も有之候間、嚴敷取締り  
致候、右二付各々様方御荷物之内問屋買次而已ニ不限勝手俣  
二直売捌被致候仁も有之趣相承知致居候間、荷物着之節相改  
差押し申候二付、其御仲間ニ而茂御迷惑被致候御方も可有之  
与奉存候間、一応御掛合申置候、御一同御相談之上早々御報ニ  
可被仰下候、先者右得御意度如斯ニ御座候、以上

天保九戌九月五日出二申来候、以上

江戸寄合所呉服問屋行事改より

差上申御請証文事

酒造之義当田方毛上も難見居二附申西両年之通り先三ヶ分一  
造之積被居置候得共、追々違作打続候上之義若凶荒ニ至候而  
者眼前飢民之食料を減し候次第、然ルニ酒造人共義右勘弁も  
無之、御府内酒高直ニ迷ひ積送り候八、格別利潤ニ可成与古  
米を糴合買請候故、却而御府内も高直之趣不仁之所業驕立之  
基ニも可至、依而者追々不時御改別而古米より新酒造込候義  
者勿論過造隠造等致候もの八聊無用捨御召捕、嚴重御取斗ひ可  
被成、且違作を勘弁酒造見合もの八奇特之筋ニ附其段早々可  
申上旨被 仰渡承知奉畏候、依而御請連印差上申所如件

天保九戌年月日

誰支配所

領分知行

何国何郡何村

造米高何程

酒造人

此三分一

誰印

一何程

戊九月朔日  
申中刻

造米高何程

此三分一

誰印

一何程

関東向御取締出役

山本大膳手代

須藤保次郎御印

小池三助御印

同手附

内藤賢一郎御印

同

太田平助

不詰合無印

山田茂左衛門手附

吉田左五郎御印

御取締

出役宛殿

大小惣代

村役人惣代

名主誰印

連印

今般酒造之義申酉兩年の通先ツ三分一造、別而古米ヲ以新酒  
造込并過造隱造等致候もの八廠重可取斗旨水野越前守殿被

仰渡候段、御奉行所も組合村々酒造人共へ早々自分共も申渡

児玉郡

八幡山町

児玉郡

外三拾九ヶ村

榛澤郡

寄居村

外三拾式ヶ村

秩父郡

本野上村

外十式ヶ村

下吉田村

外拾六ヶ村

上小鹿野村

外拾壹ヶ村

贅川村

外五ヶ村

大宮郷

外拾八ヶ村

我野坂石町分

外十三村

右寄場役人中

大 惣代中  
小

戌九月十二日曉寅下刻贅川村より左之通り継来ル

酒造之義嚴重被仰渡候趣、当月朔日熊谷御用先々申達、酒造人共へ請書申附候間心得違者有之間敷候得共、尚後悔無之ため我等共多分廻村及教示候条、其砌酒造人共自分可罷出、尤日限別段可申達候、たとへ達以前古米ヲ以元取候とも猶古米二而懸米決而難相成、右者追而御差図次第可申達候得共、先廩之積相心得元取穀高教示之砌可申立、若押隠置候歟懸米并隠造過造致す輩八無用捨取斗条酒造人共其旨可得相心候

一 右受書来十五日迄二鴻巣宿へ向差出候筈、相達最早同宿へ向差出候分八格別、其余未た不差出分八早々取調置、不日廻村之砌無差支差出候様可被取斗候

右之趣寄場大小惣代共々此廻状着退刻不洩様相達条可被申候、刻附受印順達留々鴻巣宿へ向刻付可被継戻候、已上

関東向御取締出役

戌九月十日

山本大膳手代

未の上刻

須藤保二郎御印

同

小池三助御印

御手附

内藤賢一郎御印

太田平助不詰合無印

山田茂左衛門手代

吉田左五郎御印

宛村々例之通り

酒造三分一作り二而人数書上ル

一三拾四人

利兵衛支配人 武兵衛

内式拾六人

家内召仕共分

八人

酒造付召仕分

内式人

米春分

杜氏佐兵衛

九月十五日

一家内拾壹人

五兵衛

内七人

家内召仕分

四人

酒造付召仕分

内壹人

米春分

杜氏与七

九月十五日

坂口升屋喜右衛門

御公儀懸リ之義者大家重左衛門殿名前

差上申御請証文

当秋酒造古米造御差止已前銘々造高三分一之内左之通

八月廿四日

一元米壹石

同郷名主四郎右衛門店

此糶四斗

新三郎

次へ

九月二日

松平下総守領分

一元米壹石

武州秩父郡大宮郷

此糶四斗

名主 宗左衛門店

酒造人 利兵衛

八月廿四日

一元米壹石

同郷名主四郎右衛門店

此糶四斗

同 新三郎

八月廿八日

一元米壹石

同郷百性万蔵店

右組合大惣代

此糶四斗

同 五兵衛

名主 可左衛門

九月一日

五人様御名宛

一元米壹石

同郷百性小兵衛店

此糶四斗

同 太郎左衛門

八月廿七日

一元米壹石

同郷百性

重五郎

此糶四斗

同

右之通古米ヲ以元取仕候所、去々申年被仰渡も有之、猶又

今般御趣意二も相振候二付掛米不致廢之積可心得、寒造時

節二至り新米ヲ以御趣意相守、酒造之儀者不苦旨被仰渡承

知奉畏候、依之御請証文差上申所如件

天保九戌年九月十六日

右当人

利兵衛

新三郎

五兵衛

太郎左衛門

重五郎

差添人

名主 宗左衛門

九月中旬より十月三日迄分

一百六拾八俵 但し寄居小川其外買入之高分

右之通書上ケ申候、但し穀屋行司方へ夫より松本惣左衛門様

へ書上二相成、夫より取締御出役須藤保治郎様江上ル

成申候、則当店之分左二

覚

右御差紙渋川より刻付二参ル

一此度須藤保治郎様より当町穀屋行司方へ当戌九月中旬より米買

入高御尋二付、当町不残尚又在方二至迄俵数之所右穀屋方

書出申候、則右書付松本へ差上ケ夫より須藤様方御達し二相

九月十七日御差紙質物一条

同十八日日本庄着、同廿二日帰店仕候

火方盜賊御改役

藤谷長門守様組

中山登右衛門様より

一本庄会所但し江原与市宅二而盜賊久保平悺熊藏、質物置主  
上町竹四郎後家二被相頼、置主者同所勇藏、但シ夫女房お  
りく、当七月十八日式朱紺相棒立嶋单物壹ツ品主清水屋外  
二久保平馬吉女房壹分給はる、但し品主者京嶋久七也、外  
二綱壹反壹分質物、上町茂兵衛後家お岩右品主者井藤也

右三口有之、相改二相成申候所右品物等不残請出し二相成  
候得共、一丹不正之品質入二相成候上者右質同様之御取斗  
可相成、猶亦江戸表追而御呼之所吉田嘉左衛門立入、右品  
之儀も元々二相歸り居候上者本庄会所切二而内済相成申  
候、右二付御上へ四人分被上候遺物其外嘉左衛門猶亦夕引  
方へ夫々心付致内済仕候

右取斗之儀品物元へ相歸り有之上二而御聞濟趣、猶亦歸村  
被仰付候登右衛門様御口上趣左二相印置申候

一右質物其方二質入二致有之趣二相違無之候へ共、右品物被  
取主方へ相歸り有之候へ者、其店之儀八役宅儀二も有之、  
格別勘弁之上当所切二而相済被遣候間勝次第二引取被仰付  
候、其外掛ケ合

松本清藏 馬吉 政五郎 岩吉 甚八

上町九兵衛 善兵衛 金物屋惣助 永藏

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』(末永・本村・上野山)

近江屋新三郎 〆十式人 差添宮地寅藏

外同 中村虎吉

#### 右同断御差紙

一上田野村早縄井上弥市方へ質入相成候品、但し<sup>去九月九日入</sup>  
当店左書方へ売却、左書方二而買請有之候所、右質置主日  
野村おゆき右盜賊播州無宿右女盜賊与対談致置候へ上者、  
右品有誤二申上候ね者相済不申候旨女の事故致方有之候所  
是も内々取拷、右品物之儀早縄之質物致買請品物者本庄二  
而買調、猶亦折節伊豆沢被取主罷出居候間、取拷二致江戸  
表罷出候所本庄切二而為相済申候、是取拷致二も内々遺物  
致御聞濟相成申候、右二付江戸行之儀者早縄掛リ二相成申  
候所下影森閑土半兵衛殿方二質物有之、是相談之上早縄持  
之所右下影森江相讓双方相持取拷仕候、右二付割合之儀者  
江戸掛り入用五人割、但シ則左

右何程相掛候得共 上田野村弥市  
五ツ割合入用 日野村おゆき

出し候引合 新井半兵衛  
常木質置主

升屋利兵衛

右早縄御礼掛候割合之儀者嘉右衛門方者相のそき御上四人

江遺物割合、但し拙店分者相のそき

御上様四人へ遺物割合

日野村おゆき

早縄弥市

升屋左書方

右買調之儀品五品

黒半天沓ツ

青梅女綿入沓ツ

絹紋付絹物沓ツ

緞子浦付帯沓ツ

花色こし帯沓ツ

五品

右本庄二而相済

代式分一朱也

九月廿二日二一同帰店仕候

関東御取締御出役様へ酒造三分一造御差紙写左之通

天保九戌十月廿日出、当地へ十月廿三日着

酒造三分一造御差紙写

一先達而自分共儀廻村酒造人共江新酒売出方差留置候儀、  
今般其御筋御沙汰二付来ル十一月朔日へ可売出旨可申達候  
事

一新米ヲ以三分一造御趣意相守、寒造之儀者別紙仕方書之通  
申達候条、造家者勿論組合寄場大小惣代其所役人共一同篇  
与熟覽、得其意聊御趣意者二不振様入念可取斗候事

一濁酒之儀猥二相成候二付、是又其御筋へ今般格別之訳ヲ以  
別紙安文之通申渡請証二申付候間、組合限連印可差出候事  
右之通申達候間、如斯寄場并大小惣代共へ組合限村々江昼  
夜刻付ヲ以迎行届候様取斗、濁酒受証文共者来ル十一月十  
日迄二日限無相違仲仙道鴻巣宿江向濁酒請証文与上書江断  
相記、昼夜刻付可被差越此一紙村下江刻付令請印、留へ是  
又刻付ヲ以同宿江向可相返候、以上

戌十月廿日

辰上刻出ス

関東御取締出役

山本大膳手代

須藤保治郎

同

小池三助 不詰無印

同人手附



内藤賢一郎

同人手代

太田平助

山田茂左衛門手附

吉田左五郎

児玉郡八幡山町児玉村

外三十九ヶ村

榛沢郡寄居村

外三十式ヶ村

秩父郡本野上村

外十式ヶ村

同 下吉田村

外十六ヶ村

同 上小鹿野村

外十一ヶ村

同 贛川村

外五ヶ村

同 大宮郷

外十八ヶ村

戌十月廿三日午申刻拜見印

我野坂石町分

外十三ヶ村

右寄場并組合惣代役人中

付此度左之通

一先達而取調差出候元取廢、又者造中或者絞立売出等之石数銘々造高三分一之内二而引去、残石数造酒之事

一寒造元米洗々仕廻米洗仕込迄其度々其村役人寄場役人大小惣代重立候酒造人立会見届ヶ候筈之事

但本文立会酒造人其組合造家軒数二寄見斗ひ、寄場役人大小惣代評儀之上人物相撰人数取極可為立会事

一米洗石数日限之儀者其前以酒造人より所役人申出、所役人より寄場役人惣代江通達可致候事

一右見届二罷越候節一同腰弁当持參、酒造人共より酒食賄者勿論代料二而も決而請取間敷候事

右之通章失無之嚴重二取締、御趣意筋行届候様可申合候、

以上

戌十月

差上申御請証文之事

今般酒造嚴重被仰出候処、是迄酒造人共造方勝手俣之由、此度者銘々米洗石数日限共取極々、其所役人寄場役人大小惣代組合内重立候酒造人一同立会見届ヶ諸事取締致候筈、尤是迄米洗ふかし共夜分之由二候得共、紛敷過造米之基二

酒造之儀弥嚴重被仰出株持酒造人すら三分一造堅被仰付候程之儀、濁酒者勿論二候へ共、纔之石数四斗樽見江懸之处江手造致、手壳其俣被差置候へ共、幾樽二而造込置候儀、且聊二而も卸売等決而難相成、尤表向手製手壳之名目二而内実卸売

候者も有之候由以之外成儀、たとへ少分候而も此上卸売候者  
者、酒造隠造過造者卜同様無御用捨御召捕嚴重二御取斗可被  
成旨被仰渡一同承知奉畏候、依而御請書連印差上申所如件  
天保九戌年十月

前之通 同

同

同

同

役惣代印

名主印

右寄場たれ印

右組合大小惣代

たれ印

たれ印

何某支配

何某領分

何某知行

何寺社領

何国何郡何村

店借り

百性

濁酒造人

誰印

組合誰印

村役人惣代

名主たれ印

御取締出役衆殿

十月廿日御差紙同廿四日被仰渡候迄

一酒造三分一造高 升屋利兵衛分

酒造株三百廿五石

一百八石三斗三升三合

八月卅日洗九月二日元米

同壹石四斗 五斗元壹組引

引ノ百六石九斗三升三合也

右御趣意通造高

戌十月<sup>カ</sup>何度折返し造漬<sup>カ</sup>  
一合何石漬<sup>カ</sup>

ノ濁酒造人無之村々左之通

右造方元米取次第

右十月廿四日より御改被下候趣同廿三日申上候趣

一十月廿五日洗米

一四斗 但し元糀

同廿六日

一四斗 同

同廿七日

一壹石四斗 元糀味共

同廿八日

一壹石四斗 同

十月廿九日

一壹石四斗 元糀味共

同卅日

一壹石 味

十一月朔日

一壹石 同

但し五斗元五組

ノ此穀高七石 但し五斗元十

十一月廿七日

一壹石四斗洗米

右之通其前日二村役人見届ケ之御方申上置候

右御改見届役人

熊木田代勇太郎

重立酒造人 久保市郎兵衛

名主 惣左衛門

右三人御立会之上元取致候

十月廿七日出会之上一同相談仕候

前文五斗五組造穀高左二

掛米

一十二月四日初メ

一三斗貳升 添糀

五日

一三斗貳升 同

同六日

一八斗 中添糀

七日

一壹石六斗 中添糀添味

八日

一貳石三斗 中添仕舞糀添味

同九日

一三石九斗	糀米揃中添味	同十九日	仕舞糀中仕舞掛米
同十日		一四石九斗	但シ中添糀添掛米引
一三石九斗	同	同廿日	中仕舞掛米
同十一日		一四石貳斗	但シ中添仕舞糀添掛米引
一六石五斗	糀米掛米揃	同廿一日	仕舞掛米
同十二日		一貳石五斗	但シ添糀米不殘引
一六石五斗	同	同廿二日	同
同十三日		一八石四斗	五斗元十貳
一六石五斗	同	一貳石五斗	但し六組分
同十四日		一七拾七石八斗	潰穀高合
一六石五斗	同	元味	合八拾六石貳斗
同十五日		十月十五日	外十四石四斗
一六石五斗	中仕舞糀掛米揃添糀引	一六斗四升	先造分 <sup>(力)</sup>
同十六日			一三石中味
一六石壹斗八升	同		洗米
同十七日			
一六石壹斗八升	仕舞糀掛米		
同十八日	但シ中添糀引		
一五石七斗			

同十六日

一五石式斗仕舞味

一九斗六升

仲糺

ノ十三石

同十七日

一壹石四斗

仕舞糺

同十八日

一壹石六斗

添味

本町大坂屋五兵衛分

酒造株貳百石

一酒造三分一造高穀数

一六拾六石六斗六升六合

八月廿八日元取

同壹石四斗 先元取米引

引ノ六拾五石式斗六升式合 当造高分

右元取穀数左二

一十月廿五日ノ御改被下候趣廿四日申上候趣

一十月廿六日 洗米

一四斗 元糺

同廿七日

一四斗 同

同廿八日

一壹石四斗

元糺味

同廿九日

一壹石四斗

同

十月卅日

一壹石

味斗

十一月一日

一壹石

同

五斗四組

此穀高五石六斗

但シ五斗元十

右元取前日二見届村役人元方申達候

右見届役人 熊木田

代勇太郎

重立候酒造人 久保市郎兵衛

名主 惣左衛門

右三人御立会之上取元仕候

右四組元取之方掛米穀数左二

掛米但し五斗元四組

十二月二日洗

一三斗式升

添糺米

同四日

一八斗

中添糶米

同五日

一壹石五斗

添味仕舞共糶

同六日

一八斗

中添糶米

五斗一勺分造方左二

一糶式斗

米五斗

〆七斗 元分

一添 三斗式升

糶

八斗

ふかし

一中 四斗五升

糶

壹石六斗

米

一仕舞

七斗三升

糶

貳石六斗

米

但し六石半仕舞

右元共

惣穀高七石式斗

右五斗五組但し十

穀高〆七十式石也

右初メ〆一日二置掛仕舞迄凡十日斗

酒たし方壹割式分五厘

六斗元造方

一貳斗四升

糶

六斗

ふかし

〆八斗四升

元三分

一添糶 四斗

壹石味

但し水くみ次第

一中糶 六斗

貳石味

一仕舞 八斗

三石味

元味合

穀高八斗六斗四升

但し六石仕舞

右六斗元五組五斗十

但し壹式迄造

穀高〆八拾六石四斗

造初〆掛仕舞十日、但し一日二置酒二成大方元取〆凡三十

日斗

酒たり方 壹割貳分五厘

規定証文之事

- 一 十組呉服問屋仲間之義八從古來御仕法在之、諸国々呉服物類御当地江持登無株之呉服屋へ直売捌 并御当地打越通荷物不相成義兼而及承候所、仲間多人数故行届兼候所、此度一同相談相整候二付御仲間御規定左之通相守可申候
- 一 御停止之品々并不正之品八不及申、都而紛敷品々一切取扱申間敷候事

- 一 御仲間并下組衆中江差障二相成候儀無之様相心得可申候事
- 一 無謂直段引上ケ候義亦八不当之直段ヲ以取引致申間敷候事
- 一 行事之儀八年々出府之砌名前書ヲ以御届可申候事
- 一 仲間譲り渡し又八名前替等在之候節者書付ヲ以届ケ可申候事

但名前貸取次荷物決而致申間敷候事

- 一 御当地打越諸国行荷物之儀八此度熟談相整 以来差障無之趣御承知被下候事

- 一 御府内無株之御方江直売捌之儀是迄指引等在之候得者相濟候まで御猶予被下候事

但し国本之儀八急度仲間取締致可申、若仲間外之者在之候八、早速御届可申候事

一新規仲間加入頼出候者有之候八、仲間相談之上行事々御願立可申事、右之通今般熟談相整相極候上八規定之趣堅相守、不取締之義無之様急度相心得、右為証拠金三拾両也御仲間江御預置候間、仲間之内休店之者在之候節者家別割ヲ以御割戻し可被下候、尤買次之儀者是迄仕来り候通出入方銘々不相変被仰付候義難在奉存候 弥出情可仕、依之規定連印為取替一札差出申処仍而如件

天保十一年六月

秩父買次仲間

- 浅見宗兵衛
- 大森喜右衛門
- 升屋利兵衛
- 井上藤右工門
- 宮崎定右工門
- (3人)
- 何田七兵衛
- 井上治右工門
- 川北善兵工
- 柿原万蔵

龜屋太右工門

今井重右工門

高野伊左衛門株當時引請人

何佐美小兵衛<sup>(ママ)</sup>

十組呉服問屋

御行司衆仲

松本主膳様

御宗領太郎様

出生御祝義金貳朱

天保十二丑春

拝借仕金子之事

一金何両

右之金子無拋要用二差支拝借仕候所実正二御座候、返上之儀者来ル十二日利足差出元利共急度上納可仕候、為念証文差上申所如件

天保十二丑十二月

大宮郷

拝借人

升屋利兵衛判

証人

松本惣左衛門判

御代官所

安政二卯年十二月十日夜五ツ時比大火二而不残焼失致候、尤毛上之端二而少々斗、秩父ノ入口横町二而少々焼残リ申候、全店義實蔵壹ヶ所相残リ外八不残焼失致候、正店義醬油蔵壹ヶ所相残リ見世卜穀蔵不残焼失致候

大坂屋五兵衛代差助寄居市仕末相印申候

天保九戌戌年十二月九日大坂屋五兵衛代差助米買二参リ申候所、同町武蔵屋伝蔵方二而米廿俵買請候、右差助持出し金三十五両壹分胴巻ノ取出し金払致候節其場所二而貳朱金十両包不足仕候二付、田中四郎右衛門相頼右伝蔵店家内八申二不及居合候馬土寺尾村梅二郎外三人者共種々相改候ヘ共、一切行方相知れ不申候、依之名主与右衛門白子屋弥右衛門大谷孫兵衛代治右衛門外壹人、右六人宛種々相改暮候ヘ共一切相訳リ不申候、無拋帰店仕候、依之松本惣左衛門方ヘ相届ケ御陣屋御代官所相届ケ奉願上候、則左二



但し右寄居取糺仕末書松本へ差上ケ置申候

乍恐以書付御届ケ奉申上候

私手代差助儀昨九日榛沢郡寄居町江米買ニ罷越、同町武蔵屋伝蔵店ニ而米廿俵買請、外ニ先達而買置候麦代も有之候ニ付、同日朝胴巻ニ入持参候金三十五両壹分差出し、右之内金拾八兩右米麦代金相払候節式朱金拾兩包紛失仕候ニ付、同町役人中右伝蔵を始其場ニ居合候馬士当郡寺尾村梅二郎外三人之者共江種々穿鑿致呉候得共一向相知不申候、依之御届ケ奉申上候、此段被仰上可被下候、以上

天保九戌年十二月十日

大宮郷

百性万蔵抱

大坂屋五兵衛

抱親

万蔵

松本宗左衛門殿

前書之趣吟味仕候処願相違無御座候、依之御届奉申上候、以上

割役

松本惣左衛門

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』（末永・本村・上野山）

御代官所

天保十亥四月廿三日

御領分穀屋仲間取極御趣意被仰渡候写

一他村より免札讓渡シ之儀者双方談を遂、行事之者より加印双方より可相願候、且又商内相止候節者行事之者加印相願免札返上可致候

但シ大宮郷八行司四人宛年々隔番ニ相立、免札讓渡新規願并商相止免札返上之節右行事加印ニ而可相願候、入浮<sup>マツ</sup>八ヶ村之内横瀬村山田之内下五ヶ村之内皆野村より下六ヶ村之内へ行事式人宛隔番ニ相定、免札讓渡商相止免札返上之節右行事加印可相願候、尤毎年八月十二日仲間会合之節行事之者取究、右名面 御役所へ書出し可申候

一在方ニ而是迄穀商免札相渡置候分之外新規相願候儀不相成、乍併商相休ミ免札返上相成居候分有之相願候ハ、相渡候筈、尤モ大宮郷町并之分者新規相願候共勝手次第有之、是又行事之者方<sup>マツ</sup>へ懸合可相願候、町並之者より在方へ讓引之義不相成候

一万諸商万小商之免札所持之分者仮令穀商不致候とも仲間与相心得可申候

但穀商相休候内者仲間会合無之候共勝手次第、尤相初候節  
八行事へ相断可致会合候

一 無札ニ而紛敷商致候者有之ハ、懸合を遂以來之取締いたし、  
若我意等申族有之ハ其段行事之者より以書面可申出候

但シ手作物売捌候者勝手次第之儀ニ付、仲間より決而差構  
申間敷候

一 相場高下之節者行事之者より連中へ為相知、相場不同ニ不  
相成候様可取斗候、尤其時々相場書 御役所へ可差出候

但シ其村ニ応シ運送駄賃多少有之候得者右差別可有事、且  
又仕入方相働下直ニ売捌候義勝手次第之事

右之外難相分儀有之ハ割役所へ可申出候  
右之趣被仰渡奉承知、一同仲間致加入候迄者新古無隔意、

仲間会合之儀者旧来定例ニ付年々八月十二日出会仕候筈、  
取極御趣意之趣相守可申様議定仕候、則仲間申談左ニ

一 商売之儀ニ付難差置儀出来致御訴ニ茂相成候節、諸人用之  
儀者其節仲間申談之上取斗可申候筈

但シ本文之通出来候節、入浮ハケ<sup>ハケ</sup>村者別段示談取斗候筈  
一 近来附送り荷物馬方とも不埒之義数度有之候ニ付、向後八

行事方ニ而馬主身元相糺シ、慥成引請人相定判取帳相渡し  
可申筈

一 売主賣目附無之儀者買取申間敷候、并賣目札有之候而も入  
斗不足ニ候者買主ノ情々相懸合、若不行届候節者行事之者  
より飛脚を遣し売主へ懸合可申筈

一 此以後者万端ニ付仲間一同申談可致、且商売之儀ニ付六ツ  
ヶ敷儀出来候ハ、惣仲間打寄可致相談候筈

右之趣仲間一同相洩申間敷候、依之毎年八月十二日致会合  
<sup>マタ</sup>不相馳様可申談、然ル上者年々行事より掟書村毎ニ壹枚宛  
相渡一同心得違無之様取極可申候、依之惣仲間議定連印仕  
候処如件

右者穀屋共惣代壹組一人宛当廿二日御陣屋へ御呼出シニ  
付、当組惣代庄右衛門罷出候処、此度仲間取極連印帳前書  
右之通り被仰渡付、依之写相連候間心得違無之様可被致候

松本宗左衛門

組下穀屋拾壹軒江

右之通名主宗左衛門殿ヲ被申渡候ニ付御請連印仕候

大目付江

御触書之写

一 近来在方ニ浪人者坏を留置、百姓共武芸を学ひ又者百姓同  
士相集致稽古候も相聞江候、農業を妨候斗ニも無之身分を

わすれ氣さかに成行候基二候へ者堅ク相止メ可申候、勿論故なくして武芸師範致候もの杯猥二村方江差置申間敷候

一 百姓共之内江戸町方火消人足之身体をまね、出火二事よせ

大勢二而遺憾有之者などの家作家財を打こわし、或者頭分与唱へ組合を立喧嘩口論を好候もの共も有之由、甚以不埒之事二候、急度相慎惣而風儀宜く可致候

右之趣村役人共常々申教、不作法者無之様心附可申候、若相背者者召連可訴出候

右之通文化二年丑年中御勘定奉行と関東内御触有之候、尚又此度相改候

一 近來上方筋金直段下落致候二付、おのつから諸色高価二至候趣も相聞候間、以来金壹両二付銀六拾目之相場を以兩替致間敷候、尤六拾目以上相場相定候儀者不苦候之間、其旨兼而相心得一統通用可致候

天保十亥五月

右式ヶ條趣從 公儀御触書有之候間相触可申候

亥六月十三日

御代官衆中

右之通松本惣左衛門様と夫々組下百姓衆中へ店々至迄廻状

近江商人矢尾喜兵衛家の天保年間『覚』（末永・本村・上野山）

相廻し申候、以上

覚

一 三拾七両式分 右者去々戌年中

御上様 西丸御普請御用被為蒙仰候二付、高掛御用金先達而被仰付候外二、此度身元相応之者御撰夫々出金被仰付、私共江も書面金高三ヶ年二上納可仕旨仰付、一同承知奉畏候、依之御請書差上申所如件

天保十一子年十月

御代官所

割役 升屋治兵衛印  
宗左衛門同

一 壹両式分 右者去々戌年中

五兵衛印

同

右拙店同断

「(裏表紙) 舛利」